

地域におけるかかりつけ医等を中心とした 心不全の診療提供体制構築のための研究

研究代表者 磯部 光章 公益財団法人日本心臓血圧研究振興会 附属榊原記念病院 院長
東京医科歯科大学循環制御内科学 名誉教授

研究要旨:

「循環器病対策基本法（正式名：健康寿命の延伸等を図るための脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法）」が成立し、今後、脳卒中や心臓病など循環器病の予防の推進、循環器病患者の健康寿命の延伸に向けた心臓リハビリテーション（リハ）を含む、循環器病の医療体制の整備、教育・啓発活動、研究の推進などが期待される。一方で、心不全パンデミックと称される高齢心不全患者の増加に対し、心不全の病態改善、あるいは尊厳ある終末期のために、心血管疾患の専門医と非循環器医・看護師・メディカルスタッフ・介護職等の多職種による連携推進が必須である。そこで、本研究の目的は、かかりつけ医等を中心とした心不全の診療提供体制構築に向けて多職種による多角的な検討を行い、心不全患者の病診連携に関わる実効性のあるステートメント（ガイドライン、患者の教育冊子、地域連携パス等）の策定・実践・検証を実施することである。

A. 研究目的

本研究班は、心不全診療を中心とする循環器専門医と循環器診療を専門としない医師や看護師・メディカルスタッフ・ソーシャルワーカー・介護職等の多職種による連携推進を目的に、在宅診療患者のケアのありようについて多面的に検討を行い、心不全患者の地域連携に関わる実効性のあるステートメントの作成、地域連携パス等を策定、実践ならびに検証することを目的とする。

B. 研究方法

①心不全教育資材の作成

i) 心不全ガイドブック:

初年度（平成30年度）は、5月にコアメンバー会議にて方向性の討議を行い、6月に全体班会議を開催し、ワーキンググループ（WG）の立ち上げならびにロードマップの案の提示を行なった。7月に第2回コアメンバー会議を開催し、ステートメント作成に向けたWGメンバーの確定、執筆内容の討議を行った。9月よりWG1-4ではWGごとに班会議を重ね具体的にステートメントのCQの絞り込み作業を実施した。また、WG5では心不全患者の教育ツールの作成を開始した。11月に第3回コアメンバー会議を開催し、具体的なステートメント執筆要綱の作成及び送付を行なった。平成31年3月、分担執筆者からステ

ートメントの分担原稿が提出され、コアメンバーを中心にステートメント（案）の取りまとめを実施した。

次年度（令和元年度）は、以上のステートメントを盛り込んだ心不全ガイドブックの作成を進め、概要決定、執筆依頼、一次原稿の確認を行い、令和元年9月に最終原稿をまず「試用版」として完成させた。12月より研究班員ほか日本医師会、関連学会である日本プライマリ・ケア連合学会、日本在宅医療連合学会よりご推薦の実地医家に評価をいただいた。令和2年1月に評価結果を解析し、さらにグループ討議のもとに最終版の概要を確定した。

最終年度（令和3年度）は、「試用版」への検証を元にさらに執筆者等が修正を重ね、研究者全員および各関連学会・団体にも校正を依頼した。またHP上でパブリックコメントを求め、厚生労働省にも送り意見を求めた。最終的に著作権やCOIの処理、動画作成（静脈圧、リハビリ等）を経て、各関係各所からの承諾を得た完成版を作成し、令和2年11月にWeb上で発表し冊子体も作成した。同時にガイドブックに対応し補完するための動画「心不全による主な身体症状 静脈圧の推定」、「心不全患者の運動療

法」をHPにて公開した。宣伝用のチラシも作成し、プレスリリースも行った。

ii) 医療・介護サービス Q&A :

令和2年度、WGメンバーおよび専門家の意見も取り入れながら、かかりつけ医、コメディカルが利用できる介護サービスに関するパンフレットを作成し、研究者達や厚生労働省の意見を反映させて完成した。1月にHPにて公表すると共に冊子体も作成した。このパンフレットは医療保険・介護保険で利用可能なサービスを有効に活用することを目的としている。

iii) 患者教育用動画資料 :

令和元年度9月に、心不全患者の教育ツールとして各種動画を公開した。ストーリー仕立て、ナレーション付きである。榊原記念病院外来・病棟で試用して内容を検証し、他のいくつかの病院でもご使用いただいた。令和2年4月の段階で25,000回以上の再生数があった。

令和2年度にはさらに続編と介護サービスに関する動画を、WGメンバーや専門家の意見を元に作成し、研究者全員の承認を得てHP上に公開した。こちらも自由にダウンロード可能であり、心不全患者の方々や各方面に役立てていただいている。

②心不全の地域連携に関する研究

i) ガイドラインの臨床現場での利用に関する研究 :

心不全診療の臨床現場におけるガイドラインの普及状況、適切性を検証する。令和元年10月、広島にてエキスパートオピニオンによるガイドラインの検証作業会議を開催した。この作業は心不全の治療方針に関するキークエスチョンを策定し、客観的意見集約法 (RAND-Delphi 法) を用いて、日本の診療現場に合わせた適切性基準 (AUC) を提示することを目的とした。結果をまとめた論文は、令和2年度にESC Heart Failure 誌に掲載された。

ii) 地域連携の実態に関する研究 :

・研究目的 :

地域連携パスについては、研究者達の討議の結果、地域における医療体制の違い等から統一したパスを作成することは難しいとの結論に至り、本研究の目的である地域格差のない心不全診療の質向上を達成するための案を検討することとなった。心不全診療の質の向上を図るためには、心不全の地域連携で目指す診療の目的 (アウトカム) を設定し、改善につながる診療の質指標を決めることが望ましい。心不全における地域連携の現状と問題点をアンケート調査により明らかにし、地域連携体制の確立を目指すことを目的とした。

・研究方法 :

WG内で討議の結果、各国のガイドライン、ステートメント、既存の質指標を元に、心不全地域連携の意義目標を設定・共有し、各地域でパスを作成する際の参考になる「心不全診療と連携に関する質指標」を提案することとなった。ストラクチャー指標、プロセス指標、アウトカム指標に整理して提案する。

・アンケート調査 :

Rand-Delphi 法によるアンケート調査で意見集約を行い、指示の高い指標を選ぶことで、実臨床で求められる適切な指標の作成を目指した。WG内でのアンケートや討議の元に指標案を練り上げ、研究者全員にHP上にて1回目のアンケートを実施した。研究結果および研究者達の意見を参考に、方針を、客観的な立場から、医療者達の行為を主観的に測定する質問票の報告に変更することとした。修正した新規指標を、第1回目のアンケート結果と共に研究者全員に送り、HP上での2度目のアンケート調査を実施した。2度のアンケート調査により指標の適切性を評価し、さらに何度も練り上げ、5つのドメイン (1. 心不全地域連携の目標、2. 地域における連携の質、3. 地域における情報共有の質、4. 地域における心不全の医学的介入の質、5. 地域における心不全の多職種介入の質) からなる「心不全の地域連携評価のための質問票」最終案を完成し、研究者全員の承認を得た。関連学会である日本プライマリ・ケア連合学会、日本在宅医療連合学会、日本心不全学会、また板橋区医師会よりご協力いただける400名を超える医師 (病院に勤務する循環器医と診療所に勤務する一般かかりつけ医) にアンケートを依頼、またHP上でも協力を依頼した。

・結果 :

アンケート結果を元に、現在の地域連携の現状と問題点を調べ、今後の心不全の地域連携体制の確立へと繋がる適切性の高い指標を作成し、論文にまとめた。

③成果の社会還元

i) 学会発表・公開シンポジウム :

1度目は、平成31年3月に日本学術会議講堂にて公開シンポジウムを開催した (一般医療者全国より250余名参加)。公開シンポジウムのアンケート調査により、都市部および疎開地域それぞれの心不全診療提供体制の現状および課題を広く調査することができた。公開シンポジウムの内容を広く広報するため、主催・共催団体に協力を依頼し、それぞれのホームページ等で講演や討議に関する動画公開に向けご周知いただいた。

令和2年度は、各関連学会学術集会において研究

者達が研究成果を発表すると共に、3月に2度目の公開シンポジウムを、COVID-19の状況を鑑みオンラインにて開催した。425名のご参加をいただき、地域的には北海道から沖縄までほぼ全都道府県、さらには海外にまで及び、職種としては医師が半数近くで、あとは看護師、療法士、薬剤師、管理栄養士などの多職種であった。内容についてもすべての講演内容が情報豊富で充実し、分かりやすく、聴衆のニーズに合っていた。追ってオンデマンド配信も行い、さらに344名の視聴をいただき、計769名の視聴者を得た。

ii) HP: 令和元年度にHPを公開して以来、各成果物のダウンロードはもとより、アンケートの依頼やパブリックコメント募集もHPを通じて行った。本研究の各種成果物と最新の情報は、全て研究班HP上に掲載して一般に公開している。現在も多数の方よりアクセスをいただき、研究成果が広く社会に還元されている。

C. 研究結果

3年間にわたる本研究には3つのミッションがあった。一つには、循環器専門以外の医師・多職種のための診療ガイドライン等の各種成果物を作成すること、もう一つは地域における患者の情報共有体制を検証し、心不全の地域連携の研究・提案を行うこと、そしてその成果を広く社会に還元することである。

①心不全教育資料の作成

i) 心不全ガイドブック:

初年度(平成30年度)より都会や過疎地域の大学病院、基幹病院などで実施されている病診連携の方法、ツールを参考に、分担研究者、研究協力者間で討議を行い、現状の循環器疾患の病診連携における問題点を抽出した。また、これにもとづき可能な項目では臨床的疑問(CQ)を設定し、エキスパートコンセンサスの形でステートメントを作成した。CQは、病態や重症度に応じた退院のタイミングとその指標、外来でのケアにおけるモニタリング、遠隔医療の導入、訪問診療の意義、フレイル、サルコペニアへの対応、地域連携ネットワークを構築する方法、家族のケア、患者・家族教育、地域連携パス、合併する疾患への対処、循環器疾患に特有な薬剤の管理、多職種チームにおける各職種の役割と分担・連携、終末期ケアの考え方、タイミング、実践法、在宅リハビリと通院リハビリ、必要な臨床検査、デバイス使用患者の管理、栄養管理、運動処方、薬物療法、認知症患者への対応などとした。

次年度(令和元年度)は、研究者が実践している病診連携の方法、ツールに関して討議を行い、現状

の循環器疾患の病診連携における問題点を抽出した。CQを設定し、エキスパートコンセンサスの形で提言案を設定した。さらに「かかりつけ医のための心不全診療ガイドブック」の試用版を作成し、150名以上の一般かかりつけ医等からの評価を得て、その検証を元にガイドブック試用版の改定を行い、原稿の完成版を目指した。

最終年度(令和2年度)は、検証作業を経てさらに修正を重ね、各協力学会と協議を行い、パブリックコメントの収集、厚生労働省とのすり合わせなどのプロセスを経て、「地域のかかりつけ医と多職種のための心不全診療ガイドブック」(資料1)を完成し、11月に本研究HP上にて公表、冊子体も作成した。同時にガイドブックに対応し補完するための動画「心不全による主な身体症状 静脈圧の推定」(資料2)、「心不全患者の運動療法」(資料3)をHPにて公開した。宣伝用のチラシ(資料4)も作成し、プレスリリースも行った(資料5)。

ii) 医療・介護サービスQ&A:

令和2年度、医療従事者向けの患者退院後の医療・福祉サービスに関するパンフレット「地域のかかりつけ医と多職種のための心不全における介護サービスの活用方法Q&A」(資料6)を完成させ、HPにて公開すると共に、冊子体を作成した。

ガイドブック・パンフレット共に研究者や関連学会・団体、各地域医師会等に送付し、各施設および地域で役立てていただいている。HPにおいても11月から3月までの4か月あまりの間に合計14,701件のダウンロードがあり、広く一般への知識普及、啓発に役立っている。

iii) 患者教育用動画資料:

患者・家族の教育を支援するためのナレーション付き動画教材「心不全と上手に付き合うには～心不全自己管理のすすめ～」(第1話～第5話)を作成し、HPを通じて一般に公開を行った(資料7)。

また、「もっと詳しくコツを知りたい方へ」(資料8)、ならびに「介護サービスに関するよくある質問」(資料9)も作成してHP上に公開し、こちらも自由にダウンロード可能で、一般および各学会・各種研究においても広く利用されている。動画宣伝用のチラシも作成した(資料10)。

②心不全の地域連携に関する研究

i) ガイドラインの臨床現場での利用に関する研究:

令和元年度、エビデンスに乏しい高齢心不全のガイドラインの内容を検証することとなった。高齢者心不全、多職種介入についてはエビデンスが乏しく、

ガイドラインの実効性についても検証が行われていない。本研究班ではエキスパートオピニオン

(RAND-Delphi法)によるその検証を行い、論文にまとめた。またその結果をガイドブックに反映させることも目標とした。論文

“Appropriateness rating for the application of optimal medical therapy and multidisciplinary care among heart failure patients”は、令和2年度にESC Heart Failure誌に掲載された(資料11)。これは心不全診療におけるAUC(Appropriate Use of Criteria)の策定を世界で初めて行ったものである。

ii) 心不全の地域連携に関する研究：

地域格差のない心不全診療の質の向上を図るため、地域連携パスに代わる「地域における心不全診療の質を評価するための指標」を作成し、Rand-Delphi法によるアンケート調査を経て(資料12)、その結果を論文にまとめた(投稿中)。

③成果の社会への発信

i) 学会発表：

研究者各位が下記の各関連学会学術集会において本研究についての発表を行った。

第17回日本循環器看護学会(令和2年10月)

「地域のかかりつけ医と多職種における心不全診療：新しいガイドブックの作成と活用」

座長：池亀俊美・山田佐登美

演者：伊東紀揮・佐藤幸人・田中奈緒子

第24回日本心不全学会(令和2年10月)

「地域のかかりつけ医によるこれからの心不全診療：厚生労働省科学研究費補助金研究班での検討から」

座長：磯部光章・木原康樹

演者：磯部光章・加藤真帆人・衣笠良治・香坂俊・根井あずさ・渡辺徳

第85回日本循環器学会(令和3年3月)

「かかりつけ医によるこれからの心不全診療と循環器病対策推進基本計画」

座長：磯部光章・羽鳥裕

演者：磯部光章・衣笠良治・弓野大・横山広行・渡辺徳

ii) 公開シンポジウム：

本研究では研究成果を社会に還元するため、3年間に2度の公開シンポジウムを開催した。

1. 「心疾患の診療提供体制：循環器病対策基本法制定を受けてーかかりつけ医での診療・多種

職介入・心臓リハビリテーションの定義に向けてー」

開催日：平成31年3月21日(木・祝)

場所：日本学術会議講堂(資料13)

250名以上の参加者にお集まりいただき、盛況のうちに終了した。

2. 「かかりつけ医によるこれからの心不全診療：循環器病対策基本計画制定を受けて」

開催日：令和3年3月6日(土)

開催方法：オンライン&オンデマンド配信

(資料14)

本研究の総まとめとしてかかりつけ医向けにオンライン公開シンポジウムを開催し、研究者達が座長・演者を務め、本研究についての研究成果を発表し、国内のみならず海外よりも425名のご視聴をいただいた。追ってオンデマンド配信も行い、さらに344名のご視聴をいただき、研究成果を社会に還元した。(視聴数334再生、平均視聴時間84分、ページへの総アクセス数557回)。

iii) HP：

令和元年9月には本研究班のHPを立ち上げ、各種成果物をダウンロード可能とした(資料15)。各種アンケートの回答もHPに直接送れるように調整した。本研究の各種成果物と最新の情報は、全て研究班HP上に掲載して一般に公開している。

現在までのHPへのアクセス総数は60,000件を超え、多数の方にご利用いただき、研究成果が広く社会に還元されている。

D. 考察

i) 教育資材について：

本研究の成果物である「心不全ガイドブック」、「介護サービスQ&A」、「患者教育用動画」についてはHPを通じて多数のダウンロードをいただいているが、今後の評価が必要である。

ii) 診療連携について：

地域連携パスに代わり作成した「心不全地域連携の実態調査に関するアンケート」においては、現状を集約した実態が明らかにされ、地域連携で検討すべきポイントが明確になった。病院の循環器医とかかりつけ医では、地域連携に求める目標が大きく違い、心不全診療の質に差がある。病院の医師はかかりつけ医のニーズを満たす情報提供が出来ていない。また、病院と地域多職種間での情報共有が不十分である。今後、このような「病院医師とかかりつけ医の意識の違い」、「心不全診療の質の差」、「多職種間の連携、情報共有の向上」、「地域連携の質評価と向

上」等の課題に対し、「教育システムの確立」、「連携情報共有システムの確立」、「地域連携の質評価・フィードバックシステムの確立」あるいは「診療情報提供書の標準化や心不全のチェックリスト作成」等の解決策を探り地域連携を進めることで、病院循環器医師とかかりつけ医の各医師の強みや多職種との連携を生かした相互にサポートできるプログラムの提案が期待される。

E. 結論

3年間の研究が無事終了し、本研究の目標としていた心不全ガイドブック、患者向け各教育動画、医療サービスに関するパンフレット、病診連携パスに代わる医療の質指標の論文等を完成させた。また、これらのツールを踏まえて、各学会学術集会や公開シンポジウムでの発表、討議を通じて本研究の成果について周知し、当初予定どおりの成果を挙げるこ

G. 研究発表

1. 論文発表

(平成30年度)

磯部 光章 (研究代表者)

学会誌・雑誌等における論文一覧 (国内誌 1 件、国際誌 4 件)

- 1、Kitagawa T, Hidaka T, Naka M, Isobe M, Kihara Y; Current Medical and Social Conditions and Outcomes of Hospitalized Heart Failure Patients: Design and Baseline Information of the Cohort Study in Hiroshima. *Circulation Rep.* in press 2019
- 2、Nunoda S, Sasaoka T, Sakata Y, Ono M, Sawa Y, Isobe M: Survival of Heart Transplant Candidates in Japan. *Circ J* in press
3. Tajima M, Nakayama A, Uewaki R, Mahara K, Isobe M, Nagayama M: Right ventricular dysfunction is associated with exercise intolerance and poor prognosis in ischemic heart disease. *Heart Vessels* Published online: 05 September 2018
- 4、Isobe M: The Heart Failure “Pandemic” in Japan: Reconstruction of Health Care System in the Highly Aged Society. *JMA J* in press
5. 磯部光章: 超高齢社会における心不全診療提供体

とが出来た。今後、希望者にガイドブック・パンフレット冊子版の実費での頒布を予定している。

また、地域連携パスに代わる「心不全地域連携の実態調査に関するアンケート」のデータにより、わが国における心不全の地域連携の実態と問題点が明らかとなったことで、今後の循環器病対策推進基本計画における心不全の地域連携の目指す方向性を示し、医療・介護の質向上に寄与することが期待される。

さらに今後、本研究班のホームページを維持・充実させて公刊物の普及、改訂等を行い、最新の情報を逐次更新しながら提供し、引き続き心不全診療に関わる全ての人々のための普及、啓発、検証を図る。

F. 健康危険情報

特になし。

制の展望 心不全パンデミックとは何か-心不全の現状を知り将来を考える 医学のあゆみ Vol. 266 No. 13 2018年9月29日 p 1036-1042

安斉 俊久 (研究分担者)

1. 安斉俊久. 心不全パンデミックを見据えた高血圧治療. *Progress in Medicine* 2018; 38: 611-614.
2. 安斉俊久. 終末期医療と緩和ケア. 医学のあゆみ 特集 心不全のすべて. 分子生物から緩和ケアまで: beyond ガイドライン 2018; 266: 1208-1212.
3. 安斉俊久. 心不全患者に対する適切な緩和ケアとは. *臨床麻酔 別冊* 2018; 42: 1321-1326.
4. 安斉俊久. 心不全における緩和ケア. *心臓* 2019; 51: 121.
5. 安斉俊久. 緩和ケア. 特集 拡張型心筋症のすべて-一遺伝子診断から緩和ケアまで. *循環器内科* 2019; 85: 280-286.
6. Nakano H, Nagai T, Sundaram V, Nakai M, Nishimura K, Honda Y, Honda S,

- Iwakami N, Sugano Y, Asaumi Y, Aiba T, Noguchi T, Kusano K, Yokoyama H, Ogawa H, Yasuda S, Anzai T. Impact of iron deficiency on long-term clinical outcomes in patients with acute heart failure. *Int J Cradiol* 2018; 261: 114-118.
7. Hamatani Y, Nagai T, Nakai M, Nishimura K, Honda Y, Nakano H, Honda S, Iwakami N, Sugano Y, Asaumi Y, Aiba T, Noguchi T, Kusano K, Toyoda K, Yasuda S, Yokoyama H, Ogawa S, Anzai T. Elevated plasma D-dimer level is associated with short-term risk of ischemic stroke in acute heart failure patients. *Stroke* 2018; 49: 1737-40.
 8. Sawano M, Shiraishi Y, Kohsaka S, Nagai T, Goda A, Mizuno A, Sujino Y, Nagatomo Y, K ohno T, Anzai T, Fukuda K, Yoshikawa T. Performance of the MAGGIC heart failure risk score and its modification with the addition of discharge natriuretic peptide. *ESC Heart Failure* 2018; 5: 610-619.
 9. Nagai T, Sundaram V, Shoaib A, Shiraishi Y, Kohsaka S, Rothnie KJ, Piper S, McDonagh TA, Hardman SMC, Goda A, Mizuno A, Sawano M, Rigby AS, Quint JK, Yoshikawa T, Clark AL, Anzai T, Cleland JGF. Validation of U.S. mortality prediction models for hospitalised heart failure in the United Kingdom and Japan. *Eur J Heart Fail* 2018; 20: 1179-1190.
 10. Kakutani N, Fukushima A, Yokota T, Katayama T, Nambu H, Shirakawa R, Maekawa S, Abe T, Takada S, Furihata T, Ono K, Okita K, Kinugawa S, Anzai T. Impact of high respiratory exchange ratio during submaximal exercise on adverse clinical outcome in heart failure. *Circ J* 2018; 82: 2753-2760.
- 心不全学会ガイドライン委員会, 木原康樹, 他
3. 今日の治療指針 私はこう治療している TODAY'S THERAPY 2019, Vol. 61:430-432, 循環器疾患 心臓腫瘍, 2019年1月, 医学書院, 木原康樹
 4. 今日の診療のためにガイドライン外来診療 2019, II 専門医の管理・治療が必要な疾患のガイドライン 循環器疾患 6 心不全, 2019年2月, 日経メディカル開発, 日高貴之、木原康樹
 5. CURRENT THERAPY, Vol. 36 No. 4:325-329, 高齢者心不全の診断, 2018年4月, ライフメディコム, 日高貴之、木原康樹
 6. Geriatric Medicine, Vol. 56 No. 7:593-595, 高齢者心不全マネージメントー現在と未来ー 序文, 2018年7月, ライフサイエンス, 日高貴之、木原康樹
 7. 日本内科学会雑誌, No. 107 No. 9:1858-1884, 超高齢社会における循環器診療, 2018年9月, 日本内科学会, 木原康樹
 8. 週刊日本医事新報, No. 4919:8-9, 循環器疾患の患者に対する緩和ケアのあり方とは?, 2018年8月, 日本医事新報社, 木原康樹
 9. Heart View, Vol. 22 No. 9:10(834)-16(840), 特集 心臓リモデリングをどう治すかー拡大心・肥大心へのアプローチー診る 2 MRI をどう活かすか?, 2018年9月, メジカルビュー社, 北川知郎、木原康樹
 10. 医学のあゆみ, Vol. 266 No. 13:1159-1162, 心不全のすべて 分子生物学から緩和ケアまで: beyond ガイドライン 超高齢者の心不全ー超高齢者ならではの特殊性., 2018年9月, 医歯薬出版, 日高貴之、木原康樹
 11. 心臓, No. 2:209-211, 「第 52 回河口湖心臓討論会」開催にあたって., 2019年2月, 日本心臓財団・日本循環器学会, 木原康樹

木原 康樹 (研究分担者)

1. 日本循環器学会／日本心不全学会合同ガイドライン 急性・慢性心不全診療ガイドライン(2017年改訂版), 2018年3月, 日本心不全学会ガイドライン委員会, (班長)筒井裕之、(班員)木原康樹, 他”
2. 日本心不全学会心不全患者における栄養評価・管理に関するステートメント, 2018年10月, 日本
12. Utsunomiya H, Hidaka T, Susawa H, Izumi K, Harada Y, Kinoshita M, Itakura K, Masada K, Kihara Y. Exercise-Stress Echocardiography and Effort Intolerance in Asymptomatic/Minimally Symptomatic Patients With Degenerative Mitral Regurgitation Combined Invasive-

Noninvasive Hemodynamic Monitoring.
Circulation: Cardiovascular Imaging Sep;
11(9):e007282, 2018.

13. Kitagawa T, Yamamoto H, Nakamoto Y, Sasaki K, Toshimitsu S, Tatsugami F, Awai K, Hirokawa Y, Kihara Y. Predictive Value of 18F-Sodium Fluoride Positron Emission Tomography in Detecting High-Risk Coronary Artery Disease in Combination With Computed Tomography. *Journal of the American Heart Association* Oct 16;7(20):e010224, 2018.
14. Takahashi I, Cologne J, Haruta D, Yamada M, Takahashi T, Misumi M, Fujiwara S, Matsumoto M, Kihara Y, Hida A, Ohishi W. Association Between Prevalence of Peripheral Artery Disease and Radiation Exposure in the Atomic Bomb Survivors. *Journal of the American Heart Association* Dec; 7(23):e008921, 2018.
15. Senoo A, Kitagawa T, Torimaki S, Yamamoto H, Sentani K, Takahashi S, Kubo Y, Yasui W, Sueda T, Kihara Y. Association between histological features of epicardial adipose tissue and coronary plaque characteristics on computed tomography angiography. *Heart and Vessels* Aug; 33(8):827-836, 2018.
16. Okubo Y, Sairaku A, Morishima N, Ogi H, Matsumoto T, Kinoshita H, Kihara Y. Increased urinary liver-type fatty acid-binding protein level predicts worsening renal function in patients with acute heart failure. *Journal of Cardiac Failure* Aug; 24(8):520-524, 2018.

香坂 俊 (研究分担者)

1. これからの心不全診療への最新アプローチ -予防からチーム医療・先進医療まで- : うつ血性心不全の身体所見の重要性
Author : 庄司 聡(慶応義塾大学 循環器内科臨床研究系大学院), 香坂 俊
Source : *Medicina* (0025-7699)55 巻 13 号
Page2182-2185(2018. 12)
2. 循環器系の症候 (心不全)
Author : 庄司 聡(慶応義塾大学 医学部循環器内科), 香坂 俊
Source : *Medicina* (0025-7699)55 巻 9 号
Page1322-1326(2018. 08)
3. 病歴と身体所見で診る心機能 時間軸を視野に
入れた心機能評価(解説/特集)
Author : 庄司 聡(慶応義塾大学 医学部循環器内科), 白石 泰之, 香坂 俊
Source : *Heart View* (1342-6591)22 巻 4 号
Page298-302(2018. 04)
4. Higuchi S, Kohsaka S, Shiraishi Y, Katsuki T, Nagatomo Y, Mizuno A, Sujino Y, Kohno T, Goda A, Yoshikawa T; Association of renin-angiotensin system inhibitors with long-term outcomes in patients with systolic heart failure and moderate-to-severe kidney function impairment. *West Tokyo Heart Failure (WET-HF) Registry Investigators. Eur J Intern Med.* 2019 Feb 5. pii: S09536205(19)30038-X.
5. Inohara T, Manandhar P, Kosinski AS, Kohsaka S, Mentz RJ, Thourani VH, Carroll JD, Kirtane AJ, Bavaria JE, Cohen DJ, Kiefer TL, Gaca JG, Kapadia SR, Peterson ED, Vemulapalli S. Association of Renin-Angiotensin Inhibitor Treatment With Mortality and Heart Failure Readmission in Patients With Transcatheter Aortic Valve Replacement. *JAMA.* 2018 Dec 4; 320(21):2231-2241.
6. Shiraishi Y, Kohsaka S, Sato N, Takano T, Kitai T, Yoshikawa T, Matsue Y. 9-Year Trend in the Management of Acute Heart Failure in Japan: A Report From the National Consortium of Acute Heart Failure Registries. *J Am Heart Assoc.* 2018 Sep 18; 7(18):e008687
7. Shiraishi Y, Kohsaka S, Nagai T, Goda A, Mizuno A, Nagatomo Y, Sujino Y, Fukuoka R, Sawano M, Kohno T, Fukuda K, Anzai T, Shadman R, Dardas T, Levy WC, Yoshikawa T. Validation and Recalibration of Seattle Heart Failure Model in Japanese Acute Heart Failure Patients. *J Card Fail.* 2018 Aug 10. pii: S1071-9164(18)30868-6.
8. Shiraishi Y, Nagai T, Kohsaka S, Goda A, Nagatomo Y, Mizuno A, Kohno T, Rigby A, Fukuda K, Yoshikawa T, Clark AL, Cleland JGF. Outcome of hospitalised hea

rt failure in Japan and the United Kingdom stratified by plasma N-terminal pro-B-type natriuretic peptide. *Clin Res Cardiol.* 2018 Dec; 107(12): 1103-1110.

後藤 葉一 (研究分担者)

1. 後藤葉一. 「心不全の心臓リハビリテーション」
In: 「循環器疾患最新の治療 2018-2019」(監修・永井良三、編集・伊藤浩、山下武) 南江堂, 252-254, 2018
2. 後藤葉一. 「心臓リハビリテーションの定義・構成要素」
In: 「わかる!できる!心臓リハビリテーション Q&A」(監修・伊東春樹、百村伸一、編集・高橋哲也) 医歯薬出版, 12-13, 2018
3. 柳英利・山本壱弥・鈴木裕二・福井教之・北垣和史・小西治美・山田沙織・堀池聖子・藤井沙也子・高潮征爾・大原貴裕・中尾一泰・熊坂礼音・荒川鉄雄・福井重文・築瀬正伸・中西道郎・後藤葉一. 心臓再同期療法装着心不全患者における運動耐容能改善効果は非デバイス患者より不良か? 心臓リハビリテーション (JJCR) 2018, 24: 30-36
4. 後藤葉一. 疾病管理としての外来心臓リハビリテーション. *医学のあゆみ* 2018, 265: 1023-1029
5. Suzuki Y, Ito K, Yamamoto K, Fukui N, Yanagi H, Kitagaki K, Konishi H, Arakawa T, Nakanishi M, Goto Y. Predictors of improvements in exercise capacity during cardiac rehabilitation in the recovery phase after coronary artery bypass graft surgery versus acute myocardial infarction. *Heart Vessels* 2018; 33:358-366, doi: 10.1007/s00380-017-1076-2
6. Maniwa N, Fujino M, Nakai M, Nishimura K, Miyamoto Y, Kataoka Y, Asami Y, Tahara Y, Nakanishi M, Anzai T, Kusano K, Akasaka T, Goto Y, Noguchi T, Yasuda S. Anticoagulation combined with antiplatelet therapy in patients with left ventricular thrombus after first acute myocardial infarction. *Eur Heart J* 2018; 39: 201-208, doi:10.1093/eurheartj/ehx551
7. Nakao YM, Miyamoto Y, Higashi M, Noguchi T, Ohishi M, Kubota I, Tsutsui H,

Kawasaki T, Furukawa Y, Yoshimura M, Morita H, Nishimura K, Kada A, Goto Y, Okamura T, Tei C, Tomoike H, Naito H, Yasuda S. Sex differences in impact of coronary artery calcification to predict coronary artery disease. *Heart* 2018; 104: 11189-1124, doi: 10.1136/heartjnl-2017-312151

8. Marume K, Takashio S, Nakanishi M, Kumasaka L, Fukui S, Nakao K, Arakawa T, Yanase M, Noguchi T, Yasuda S, Goto Y. Efficacy of cardiac rehabilitation in heart failure patients with low body mass index. *Circ J* 2019; 83: 334 - 341, doi: 10.1253/circj.CJ-18-0852

小室 一成 (研究分担者)

1. Uchino Y, Watanabe M, Takata M, Amiya E, Tsushima K, Adachi T, Hiroi Y, Funazaki T, Komuro I. Effect of oral branched-chain amino acids on serum albumin concentration in heart failure patients with hypoalbuminemia: Results of a preliminary study. *Am J Cardiovasc Drugs.* 18:327-332, 2018.
2. Yonenaga A, Hasumi E, Fujiu K, Ushiku A, Hatano M, Ando J, Morita H, Watanabe M, Komuro I. Prognostic improvement of acute necrotizing eosinophilic myocarditis (ANEM) through a rapid pathological diagnosis and appropriate therapy. *Int Heart J.* 59:641-646, 2018.
3. Kojima T, Fujiu K, Fukuma N, Matsunaga H, Oshima T, Matsuda J, Matsubara T, Shimizu Y, Oguri G, Hasumi E, Morita H, Komuro I. Periprocedural complications in patients undergoing catheter ablation of atrial fibrillation without discontinuation of a vitamin K antagonist and direct oral anticoagulants. *Circ J.* 82:1552-1557, 2018.
4. Tajima T, Morita H, Ito K, Yamazaki T, Kubo M, Komuro I, Momozawa Y. Blood lipid-related low-frequency variants in LDLR and PCSK9 are associated with onset age and risk of myocardial infarction in Japanese. *Sci Rep* 8: 8107, 2018

5. Sato T, Hatano M, Iwasaki Y, Maki H, Saito A, Minatsuki S, Inaba T, Amiya E, Fujio K, Watanabe M, Yamamoto K, Komuro I. Prevalence of primary Sjögren's syndrome in patients undergoing evaluation for pulmonary arterial hypertension. *PLoS One*. 13:e0197297, 2018.
6. Ueda K, Takimoto E, Lu Q, Liu P, Fukuma N, Adachi Y, Suzuki R, Chou S, Baur W, Aronovitz MJ, Greenberg AS, Komuro I, Karas RH. Membrane-initiated estrogen receptor signaling mediates metabolic homeostasis via central activation of protein phosphatase 2A. *Diabetes*. 67:1524-1537, 2018.
7. Kubota K, Soma K, Uehara M, Inaba T, Saito A, Takeda N, Hatano M, Morita H, Inuzuka R, Hirata Y, Yao A, Komuro I. Combined surgical and medical therapy for candida prosthetic endocarditis in a patient with repaired tetralogy of fallot. *Int Heart J*. 59:877-880, 2018.
8. Kodera S, Morita H, Kiyosue A, Ando J, Takura T, Komuro I. Cost-effectiveness of PCSK9 inhibitor plus statin in patients with triple-vessel coronary artery disease in Japan. *Circ J*. 82:1076-1082, 2018.
9. Kuramoto Y, Naito AT, Tojo H, Sakai T, Ito M, Shibamoto M, Nakagawa A, Higo T, Okada K, Yamaguchi T, Lee JK, Miyagawa S, Sawa Y, Sakata Y, Komuro I. Generation of Fabry cardiomyopathy model for drug screening using induced pluripotent stem cell-derived cardiomyocytes from a female Fabry patient. *J Mol Cell Cardiol*. 121:256-265, 2018.
10. Soma K, Yao A, Saito A, Inaba T, Ishikawa Y, Hirata Y, Komuro I. Regular treatment strategy with a large amount of carvedilol for heart failure improves biventricular systolic failure in a patient with repaired tetralogy of fallot. *Int HeartJ*. 59:1169-1173, 2018.
11. Sakai T, Naito AT, Kuramoto Y, Ito M, Okada K, Higo T, Nakagawa A, Shibamoto M, Yamaguchi T, Sumida T, Nomura S, Umezawa A, Miyagawa S, Sawa Y, Morita H, Lee JK, Shiojima I, Sakata Y, Komuro I. Phenotypic screening using patient-derived induced pluripotent stem cells Identified Pyr3 as a candidate compound for the treatment of Infantile hypertrophic cardiomyopathy. *Int Heart J*. 59:1096-1105, 2018.
12. Hasumi E, Fujiu K, Kojima T, Kinoshita O, Nawata K, Yamauchi H, Ono M, Komuro I. Novel extraction technique of retained pacemaker and defibrillator lead during heart transplantation. *PLoS One*. 13:e0203172, 2018.
13. Hasumi E, Fujiu K, Kawata T, Komuro I. The influence of His bundle pacing on tricuspid valve functioning using three-dimensional echocardiography. *HeartRhythm Case Rep*. 4:437-438, 2018.
14. Takeda N, Inuzuka R, Maemura S, Morita H, Nawata K, Fujita D, Taniguchi Y, Yamauchi H, Yagi H, Kato M, Nishimura H, Hirata Y, Ikeda Y, Kumagai H, Amiya E, Hara H, Fujiwara T, Akazawa H, Suzuki J-i, Imai Y, Nagai R, Takamoto S, Hirata Y, Ono M, Komuro I. Impact of pathogenic FBN1 variant types on the progression of aortic disease in patients with Marfan syndrome. *Circ Genom Precis Med* 11: e002058, 2018
15. Fujiwara T, Takeda N, Hara H, Morita H, Kishihara J, Yagi H, Maemura S, Toko H, Harada M, Ikeda Y, Kumagai H, Nomura S, Takimoto E, Akazawa H, Ako J, Komuro I. Distinct variants affecting differential splicing of TGFBR1 exon5 cause either Loey's-Dietz syndrome or multiple self-healing squamous epithelioma. *Eur J Hum Genet* 26: 1151-1158, 2018
16. Sumida T, Lincoln MR, Ukeje CM, Rodriguez DM, Akazawa H, Noda T, Naito AT, Komuro I, Dominguez-Villar M, Hafler DA. Activated β -catenin in Foxp3+ regulatory T cells links inflammatory environments to autoimmunity. *Nat Immunol*. 19:1391-1402, 2018.
17. Nomura S, Satoh M, Fujita T, Higo T, Sumida T, Ko T, Yamaguchi T, Tobita T, Naito AT, Ito M, Fujita K, Harada M, Toko

H, Kobayashi Y, Ito K, Takimoto E, Akazawa H, Morita H, Aburatani H, Komuro I. Cardiomyocyte gene programs encoding morphological and functional signatures in cardiac hypertrophy and failure. *Nat Commun.* 9:4435, 2018

18. Itoh H, Komuro I, Takeuchi M, Akasaka T, Daida H, Egashira Y, Fujita H, Higaki J, Hirata KI, Ishibashi S, Isshiki T, Ito S, Kashiwagi A, Kato S, Kitagawa K, Kitakaze M, Kitazono T, Kurabayashi M, Miyauchi K, Murakami T, Murohara T, Node K, Ogawa S, Saito Y, Seino Y, Shigeeda T, Shindo S, Sugawara M, Sugiyama S, Terauchi Y, Tsutsui H, Ueshima K, Utsunomiya K, Yamagishi M, Yamazaki T, Yo S, Yokote K, Yoshida K, Yoshimura M, Yoshimura N, Nakao K, Nagai R; EMPATHY Investigators. Achieving LDL-C target levels less than 70 mg/dL may provide extra cardiovascular protection in high-risk patients: exploratory analysis of the standard versus intensive statin therapy for patients with hypercholesterolemia and diabetic retinopathy study. *Diabetes Obes Metab.* 2018 [Epub ahead of print].
19. Hara H, Takeda N, Kondo M, Kubota M, Saito T, Maruyama J, Fujiwara T, Maemura S, Ito M, Naito AT, Harada M, Toko H, Nomura S, Kumagai H, Ikeda Y, Ueno H, Takimoto E, Akazawa H, Morita H, Aburatani H, Hata Y, Uchiyama M, Komuro I. Discovery of a small molecule to increase cardiomyocytes and protect the heart after ischemic injury. *JACC Basic Transl Sci.* 3:639-653, 2018
20. Terao C, Yoshifuji H, Matsumura T, Naruse TK, Ishii T, Nakaoka Y, Kirino Y, Matsuo K, Origuchi T, Shimizu M, Maejima Y, Amiya E, Tamura N, Kawaguchi T, Takahashi M, Setoh K, Ohmura K, Watanabe R, Horita T, Atsumi T, Matsukura M, Miyata T, Kochi Y, Suda T, Tanemoto K, Meguro A, Okada Y, Ogimoto A, Yamamoto M, Takahashi H, Nakayamada S, Saito K, Kuwana M, Mizuki N, Tabara Y, Ueda A, Komuro I, Kimura A, Isobe M, Mimori T, Matsuda F. Genetic determinants and an epistasis of LILRA3 and HLA-B*52 in Takayasu

arteritis. *Proc Natl Acad Sci U S A.* 115:13045-13050, 2018

筒井 裕之 (研究分担者)

1. Yamamoto U, Nishizaka M, Tsuda H, Tsutsui H and Ando S. I: Crossover comparison between CPAP and mandibular advancement device with adherence monitor about the effects on endothelial function, blood pressure and symptoms in patients with obstructive sleep apnea. *Heart Vessels* 2019 Mar 29
2. Inoue H, Yamashita T, Akao M, Atarashi H, I. T, Okumura K, Koretsune Y, Shimizu W, Tsutsui H, Toyoda K, Hirayama A, Yasaka M, Yamaguchi T, Akishita M, Hasebe N, Kario K, Mizokami Y, Nagata K, Nakamura M, Terauchi Y, Yamamoto T, Teramukai S, Kimura T, Kaburagi J and Takita A: Prospective observational study in elderly patients with non-valvular atrial fibrillation: Rationale and design of the All Nippon AF In the Elderly (ANAFIE) Registry. *J Cardiol* 2018 Apr 3
3. Sumitomo N, Baba R, Doi S, Higaki T, Horigome H, Ichida F, Ishikawa H, Iwamoto M, Izumida N, Kasamaki Y, Kuga K, Mitani Y, Musha H, Nakanishi T, Yoshinaga M, Abe K, Ayusawa M, Hokosaki T, Kato T, Kato Y, Ohta K, Sawada H, Ushinohama H, Yoshiba S, Atarashi H, Hirayama A, Horie M, Nagashima M, Niwa K, Ogawa S, Okumura K and Tsutsui H: Guidelines for heart disease screening in schools (JCS 2016/JSPCCS 2016)- digest version. *Circ J* 82 (9): 2385-2444, 2018 Aug 24
4. Dewan P, Jhund P. S., Shen L, Petrie M. C., Abraham W. T., Atif Ali M., Chen C. H., Desai A. S., Dickstein K, Huang J, Kiatchoosakun S, Kim K. S., Kober L, Lai W. T., Liao Y, Mogensen U. M., Oh B. H., Packer M, Rouleau J. L., Shi V, J. Sibulo A. S., Solomon S. D., Sritara P, Swedberg K, Tsutsui H, Zile M. R. and M. J. J. V.: Heart failure with reduced ejection fraction: comparison of patient characteristics and clinical outcomes within Asia and between Asia, Europe and the Americas. *Eur J*

5. Kotooka N, Kitakaze M, Nagashima K, Asaka M, Kinugasa Y, Nochioka K, Mizuno A, Nagatomo D, Mine D, Yamada Y, Kuratomi A, Okada N, Fujimatsu D, Kuwahata S, Toyoda S, Hirotsu S. I., Komori T, Eguchi K, Kario K, Inomata T, Sugi K, Yamamoto K, Tsutsui H, Masuyama T, Shimokawa H, Momomura S. I., Seino Y, Sato Y, Inoue T and Node K: The first multicenter, randomized, controlled trial of home telemonitoring for Japanese patients with heart failure: home telemonitoring study for patients with heart failure (HOMES-HF). *Heart Vessels* 2018 Feb 15

森田 啓行 (研究分担者)

1. Morita H, Komuro I. Somatic activating KRAS mutations in arteriovenous malformations of the brain. *N Engl J Med* 378: 1561, 2018
2. Tajima T, Morita H, Ito K, Yamazaki T, Kubo M, Komuro I, Momozawa Y. Blood lipid-related low-frequency variants in LDLR and PCSK9 are associated with onset age and risk of myocardial infarction in Japanese. *Sci Rep* 8: 8107, 2018
3. Morita H, Komuro I. Identification of pathogenic mutations for dilated cardiomyopathy accompanied with unicuspid aortic valve. *Circ J* 82: 1723, 2018
4. Takeda N, Inuzuka R, Maemura S, Morita H, Nawata K, Fujita D, Taniguchi Y, Yamauchi H, Yagi H, Kato M, Nishimura H, Hirata Y, Ikeda Y, Kumagai H, Amiya E, Hara H, Fujiwara T, Akazawa H, Suzuki J-i, Imai Y, Nagai R, Takamoto S, Hirata Y, Ono M, Komuro I. Impact of pathogenic FBN1 variant types on the progression of aortic disease in patients with Marfan syndrome. *Circ Genom Precis Med* 11: e002058, 2018
5. Fujiwara T, Takeda N, Hara H, Morita H, Kishihara J, Yagi H, Maemura S, Toko H, Harada M, Ikeda Y, Kumagai H, Nomura S, Takimoto E, Akazawa H, Ako J, Komuro I.

Distinct variants affecting differential splicing of TGFBR1 exon5 cause either Loeys–Dietz syndrome or multiple self-healing squamous epithelioma. *Eur J Hum Genet* 26: 1151-1158, 2018

6. Kodera S, Morita H, Kiyosue A, Ando J, Takura T, Komuro I. Cost-effectiveness of PCSK9 inhibitor plus statin in patients with triple-vessel coronary artery disease in Japan. *Circ J* 82: 2602-2608, 2018
7. Morita H, Komuro I. Outcomes of cardiac screening in adolescent soccer players. *N Engl J Med* 379: 2083-2084, 2018
8. Morita H. Secondary cardiomyopathy in polycystic kidney disease syndrome. [Editorial] *Int Heart J* 60: 10-11, 2019
9. Nakayama A, Morita H, Hoshina K, Komuro I. Quantification of abdominal aortic aneurysm calcification using the Agatston method can predict accelerated expansion rate. *Circ J* 83: 689, 2019
10. Nakao T, Morita H. Thrombospondin-2: a potential biomarker of maladaptive fibrotic remodeling after tissue damage. *International Heart Journal* 60: 235-237, 2019

(令和元年度)

磯部 光章 (研究代表者)

1. Komuro I, Kaneko H, Morita H, Isobe M, Nakayama H, Minematsu K, Yamaguchi T, Yazaki Y : Nationwide Actions against Heart Failure Pandemic in Japan-What should we do from academia?-. *Circ J* 83(9):1819-1821, 2019
2. Nakayama H, Minegishi K, Yamaguchi T, Miyamoto T, Isobe M, Komuro I, Yazaki Y: Approval of Stroke and Cardiovascular Disease Control Act in Japan:

Comprehensive nationwide approach for prevention, treatment and patient's support. *Int J Stroke* in press

3. Kamiya K, Yamamoto T, Tsuchihashi-Makaya M, Ikegame T, Takahashi T, Sato Y, Kotooka N, Saito Y, Tsutsui H, Miyata H, Isobe M: Nationwide survey of multidisciplinary care and cardiac rehabilitation for patients with heart failure in Japan –An analysis of the AMED-CHF study- *Circ J* 83 : 1546-1552, 2019
4. Kitagawa T, Hidaka T, Naka M, Isobe M, Kihara Y: Current Medical and Social Conditions and Outcomes of Hospitalized Heart Failure Patients: Design and Baseline Information of the Cohort Study in Hiroshima. *Circulation Rep*. https://www.jstage.jst.go.jp/article/circrep/advpub/0/advpub_CR-20-0011/_article/-char/en, 2020,3,15
5. Endo J, Sano M, Izumiya Y, Tsujita K, Nakamura K, Tahara N, Kuwahara K, Inomata T, Ueda M, Sekijima Y, Ando Y, Tsutsui H, Isobe M, Fukuda K: A statement for the appropriate administration of tafamidis in patients with transthyretin cardiac amyloidosis. *Circ J*:84(1), 15-17, 2020

ガイドライン

1. Tsutsui H, Isobe M, Ito H, Ito H, Okumura K, Ono M, Kitakaze M, Kinugawa K, Kihara Y, Goto Y, Komuro I, Saiki Y, Saito Y, Sakata Y, Sato N, Sawa Y, Shiose A, Shimizu W, Shimokawa H, Seino Y, Node K, Higo T, Hirayama A, Makaya M, Masuyama T, Murohara T, Momomura S, Yano M, Yamazaki K, Yamamoto K, Yoshikawa T, Yoshimura M, Akiyama M, Anzai T, Ishihara S, Inomata T, Imamura T, Iwasaki Y, Ohtani T, Onishi K, Kasai T, Kato M, Kawai M, Kinugasa Y, Kinugawa S, Kuratani T, Kobayashi S, Sakata Y, Tanaka A, Toda K, Noda T, Nochioka K, Hatano M, Hidaka T, Fujino T, Makita S, Yamaguchi O, Ikeda U, Kimura T, Kohsaka S, Kosuge M, Yamagishi M, Yamashina A on behalf of the Japanese Circulation Society and the Japanese

Heart Failure Society Joint Working Group : JCS 2017/JHFS 2017 Guideline on Diagnosis and Treatment of Acute and Chronic Heart Failure -Digest Version-. *Circ J* 83 (10):2084-2184, 2019

2. Isobe M, Amano K, Arimura Y, Ishizu A, Ito S, Kaname S, Kobayashi S, Komagata Y, Komuro I, Komori K, Takahashi K, Tanemoto K, Hasegawa H, Harigai M, Fujimoto S, Miyazaki T, Miyata T, Yamada H, Yoshida A, Wada T, Inoue Y, A. Uchida H, Ota H, Okazaki T, Onimaru M, Kawakami T, Kinouchi R, Kurata A, Kosuge H, Sada K, Shigematsu K, Suematsu E, Sueyoshi E, Sugihara T, Sugiyama H, Takeno M, Tamura N, Tsutsumino M, Dobashi H, Nakaoka Y, Nagasaka K, Maejima Y, Yoshifuji H, Watanabe Y, Ozaki S, Kimura T, Shigematsu H, Yamauchi-Takahara K, Murohara T, Momomura S on behalf of the JCS Joint Working Group:JCS 2017 Guideline on Management of Vasculitis Syndrome -Digest Version- *Circ J*. 2020 Jan 18. doi: 10.1253/circj.CJ-19-0773. [Epub ahead of print]
3. Terasaki F, Azuma A, Anzai T, Ishizaka N, Ishida Y, Isobe M, Inomata T, Ishibashi-Ueda H, Eishi Y, Kitakaze M, Kusano K, Sakata Y, Shijubo N, Tsuchida A, Tsutsui H, Nakajima T, Nakatani S, Horii T, Yazaki Y, Yamaguchi E, Yamaguchi T, Ide T, Okamura H, Kato Y, Goya M, Sakakibara M, Soejima K, Nagai T, Nakamura H, Noda T, Hasegawa T, Morita H, Ohe T, Kihara Y, Saito Y, Sugiyama Y, Morimoto S, Yamashina A on behalf of the Japanese Circulation Society Joint Working Group : JCS 2016 Guideline on Diagnosis and Treatment of Cardiac Sarcoidosis –Digest Version-. *Circ J* 83:2329-2388, 2019
4. 北岡裕章、他. 磯部光章(外部評価委員): 心臓アミロイドーシス診療ガイドライン. 2020年3月

安齊 俊久 (研究分担者)

1. Hamatani Y, Nakai E, Nakamura E, Miyata M, Kawano Y, Takada Y, Anchi Y,

Funabashi S, Hirayama A, Kuroda K, Amano M, Sugano Y, Anzai T, Izumi C. Survey of palliative sedation at end of life in terminally ill heart failure patients - a single-center experience of 5-year follow-up -. *Circ J* 2019; 83: 1607-1611.

2. Takada Y, Hamatani Y, Kawano Y, Anchi Y, Nakai M, Shibata T, Sawada E, Suzuki T, Nishikawa M, Ito H, Kato M, Shiga T, Fukumoto Y, Izumi C, Yasuda S, Ogawa H, Sugano Y, Anzai T. The utility of supporting tools for advance care planning in patients with chronic heart failure. *Int J Palliat Nurs* 2019; 25: 494-502.
3. Hamatani Y, Takada Y, Miyamoto Y, Kawano Y, Anchi Y, Shibata T, Suzuki A, Nishikawa M, Ito H, Kato M, Shiga T, Fukumoto Y, Izumi C, Yasuda S, Ogawa H, Sugano Y, Anzai T. Development and practical test of quality indicators for palliative care in patients with chronic heart failure. *Circ J* 2020; 84: 584-591.

江頭 正人 (研究分担者)

1. 山田容子, 江頭正人. 増加する後期高齢心房細動患者への対応. *Current Therapy* 2019; 37:60-4.
2. 江頭正人. “高齢者の慢性的貧血にどう対処したらよい?”. 現場のお悩みズバリ解決! 循環器の高齢者診療“術”. 荒井秀典, 大村寛敏編. 南江堂, 2019, p.78-82.
3. 江頭正人. “第7章 高齢者の生活習慣病対策”. 秋下雅弘編. 東京大学出版会, p.95-109.

木原 康樹 (研究分担者)

1. 中野由紀子, 木原康樹. XXI. 心不全の原因疾患(基礎疾患)一病態, 発生機序(心不全), 治療一2(7). 頻脈誘発性心筋症. 心不全(第2版)下ー最新の基礎・臨床研究の進歩一. 77 巻増刊号 2:297-301. 日本臨牀社. 2019年5月.
2. 北川知郎, 木原康樹. XIX. 看護・管理・支援 8. 心不全における地域連携. 心不全(第2版)下ー最新の基礎・臨床研究の進歩一. 77 巻増刊号 2:53-58. 日本臨牀社. 2019年5月.
3. 北川知郎, 木原康樹. 地域ぐるみの心不全管理(特集 疾患管理プログラムとしての心不全リハビリテーション)Regional cooperation for the

management of heart failure. 総合リハビリテーション Vol.47 No.6:539-545. 医学書院. 2019年6月.

その他

1. 木原康樹. 在宅支援を実現, 広島県心臓いきいき推進事業. 週刊日本医学界新聞第 3353 号:8. 医学書院. 2020年1月.

香坂 俊 (研究分担者)

1. Fukuoka R, Kohno T, Kohsaka S, Shiraishi Y, Sawano M, Abe T, Nagatomo Y, Goda A, Mizuno A, Fukuda K, Shadman R, Dardas TF, Levy WC, Yoshikawa T. Prediction of sudden cardiac death in Japanese heart failure patients: international validation of the Seattle Proportional Risk Model. *Europace*. 2020 Mar 10. pii: euaa002. doi: 10.1093/europace/euaa002.
2. Iwakami N, Nagai T, Furukawa TA, Tajika A, Onishi A, Nishimura K, Ogata S, Nakai M, Takegami M, Nakano H, Kawasaki Y, Alba AC, Guyatt GH, Shiraishi Y, Kohsaka S, Kohno T, Goda A, Mizuno A, Yoshikawa T, Anzai T; investigators for the WET-NaDEF Collaboration Project. Optimal sampling in derivation studies was associated with improved discrimination in external validation for heart failure prognostic models. *J Clin Epidemiol*. 2020 Jan 29; 121:71-80. doi: 10.1016/j.jclinepi.2020.01.011
3. Shiraishi Y, Kohsaka S, Katsuki T, Harada K, Miyazaki T, Miyamoto T, Matsushita K, Iida K, Takei M, Yamamoto Y, Shindo A, Kitano D, Nagatomo Y, Jimba T, Yamamoto T, Nagao K, Takayama M. Benefit and harm of intravenous vasodilators across the clinical profile spectrum in acute cardiogenic pulmonary oedema patients. *Eur Heart J Acute Cardiovasc Care*. 2020 Jan 29;2048872619891075. doi: 10.1177/2048872619891075.
4. Shoji S, Shiraishi Y, Kohsaka S, Fukuda K, Yoshikawa T. Long-Term Outcomes According to Etiology May Alter Under Different Circumstances. *JACC Heart Fail*.

2020 Jan;8(1):83-84.

doi: 10.1016/j.jchf.2019.08.021. PubMed
PMID: 31896420.

5. Sujino Y, Nakano S, Tanno J, Shiraishi Y, Goda A, Mizuno A, Nagatomo Y, Kohno T, Muramatsu T, Nishimura S, Kohsaka S, Yoshikawa T; West Tokyo Heart Failure Registry Investigators. Clinical implications of the blood urea nitrogen/creatinine ratio in heart failure and their association with haemoconcentration. *ESC Heart Fail.* 2019 Dec;6(6):1274-1282.
6. Moriyama H, Kohno T, Kohsaka S, Shiraishi Y, Fukuoka R, Nagatomo Y, Goda A, Mizuno A, Fukuda K, Yoshikawa T; West Tokyo Heart Failure Registry Investigators. Length of hospital stay and its impact on subsequent early readmission in patients with acute heart failure: a report from the WET-HF Registry. *Heart Vessels.* 2019 Nov; 34(11):1777-1788. doi: 10.1007/s00380-019-01432-y.
7. Takei M, Kohsaka S, Shiraishi Y, Goda A, Nagatomo Y, Mizuno A, Suzino Y, Kohno T, Fukuda K, Yoshikawa T. Heart Failure With Midrange Ejection Fraction in Patients Admitted for Acute Decompensation: A Report from the Japanese Multicenter Registry. *J Card Fail.* 2019 Aug; 25(8):666-673.
8. Akita K, Kohno T, Kohsaka S, Shiraishi Y, Nagatomo Y, Goda A, Mizuno A, Sujino Y, Fukuda K, Yoshikawa T; West Tokyo Heart Failure Registry Investigators. Prognostic Impact of Previous Hospitalization in Acute Heart Failure Patients. *Circ J.* 2019 May 24; 83(6):1261-1268. doi: 10.1253/circj.CJ-18-1087.
9. Shoji S, Shiraishi Y, Sawano M, Katsumata Y, Yuasa S, Kohno T, Fukuda K, Spertus JA, Kohsaka S. Discrepancy between patient-reported quality of life and the prognostic assessment of Japanese patients hospitalized with acute heart failure. *Heart Vessels.* 2019 Sep;34(9):1464-1470.

doi:10.1007/s00380-019-01378-1. Epub
2019 Mar 18. PubMed PMID: 30887105.

10. Higuchi S, Kohsaka S, Shiraishi Y, Katsuki T, Nagatomo Y, Mizuno A, Sujino Y, Kohno T, Goda A, Yoshikawa T; West Tokyo Heart Failure (WET-HF) Registry Investigators. Association of renin-angiotensin system inhibitors with long-term outcomes in patients with systolic heart failure and moderate-to-severe kidney function impairment. *Eur J Intern Med.* 2019 Apr; 62:58-66. doi:10.1016/j.ejim.2019.01.014. Epub 2019 Feb 6. PubMed PMID: 30737061.

小室 一成 (研究分担者)

1. Tsuji M, Amiya E, Hatano M, Nitta D, Maki H, Bujo C, Saito A, Hosoya Y, Minatsuki S, Hara T, Nemoto M, Kagami Y, Endo M, Kimura M, Kinoshita O, Nawata K, Morita H, Ono M, Komuro I. Abdominal skeletal muscle mass as a predictor of mortality in Japanese patients undergoing left ventricular assist device implantation. *ESC Heart Failure* 6: 526-535, 2019
2. Kiriya H, Kodera S, Ando J, Daimon M, Morita H, Komuro I. Worsening of mitral regurgitation by balloon aortic valvuloplasty for severe aortic stenosis. *International Heart Journal* 60: 768-771, 2019
3. Kodera S, Morita H, Kiyosue A, Ando J, Komuro I. Cost-effectiveness of percutaneous coronary intervention compared with medical therapy for ischemic heart disease in Japan. *Circulation Journal* 83: 1498-1505, 2019
4. Kiriya H, Kaneko H, Itoh H, Uehara M, Kodera S, Kiyosue A, Yamauchi H, Daimon M, Ando J, Morita H, Ono M, Komuro I. Left main coronary artery obstruction by huge noncoronary cusp calcification after transcatheter aortic valve replacement.

- JACC Cardiovascular Interventions 12: 1285-1287, 2019
5. Itoh H, Kaneko H, Kiriyaama H, Yoshida Y, Nakanishi K, Mizuno Y, Daimon M, Morita H, Yatomi Y, Komuro I. Relationship between the updated blood pressure classification according to the American College of Cardiology/American Heart Association guidelines and carotid intima-media thickness. *American Journal of Cardiology* 124: 396-401, 2019
 6. Komuro I, Kaneko H, Morita H, Isobe M, Nakayama H, Minematsu K, Yamaguchi T, Yazaki Y. Nationwide actions against heart failure pandemic in Japan-What should we do from academia? *Circulation Journal* 83: 1819-1821, 2019
 7. Akazawa H, Toko H, Harada M, Ueda K, Kodera S, Kiyosue A, Fujiu K, Hatano M, Daimon M, Ando J, Takimoto E, Morita H, Komuro I. Overview of the 83rd Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society - Renaissance of Cardiology for the Creation of Future Medicine *Circulation Journal* 83: 1829-1835, 2019
 8. Nakayama A, Morita H, Fujiwara T, Komuro I. Effects of treatment by female cardiologists on short-term readmission rates of patients hospitalized with cardiovascular diseases. *Circulation Journal* 83: 1937-1943, 2019
 9. Kiriyaama H, Kodera S, Minatsuki S, Kaneko H, Kikuchi H, Kiyosue A, Toko H, Daimon M, Ando J, Morita H, Komuro I. Short-term and long-term efficacy of drug-coated balloon for in-stent restenosis in hemodialysis patients with coronary artery disease. *International Heart Journal* 60: 1070-1076, 2019
 10. Minatsuki S, Hatano M, Maki H, Takimoto E, Morita H, Komuro I. Analysis of oxygenation in chronic thromboembolic pulmonary hypertension using dead space ratio and intrapulmonary shunt ratio. *International Heart Journal* 60: 1137-1141, 2019
 11. Yoshida Y, Nakanishi K, Daimon M, Ishiwata J, Sawada N, Hirokawa M, Kaneko H, Nakao T, Mizuno Y, Morita H, Di Tullio MR, Homma S, Komuro I. Alteration of cardiac performance and serum B-type natriuretic peptide level in healthy aging. *Journal of the American College of Cardiology* 74: 1789-1800, 2019
 12. Ko T, Fujita K, Nomura S, Uemura Y, Yamada S, Tobita T, Katoh M, Satoh M, Ito M, Domoto Y, Hosoya Y, Amiya E, Hatano M, Morita H, Fukayama M, Aburatani H, Komuro I. Quantification of DNA damage in heart tissue as a novel prediction tool for therapeutic prognosis of patients with dilated cardiomyopathy. *JACC Basic to Translational Science* 4: 670-680, 2019
 13. Kiriyaama H, Kaneko H, Itoh H, Yoshida Y, Nakanishi K, Mizuno Y, Daimon M, Morita H, Yatomi Y, Komuro I. Role of anemia and proteinuria in the development of subsequent renal function deterioration in a general population with preserved glomerular filtration rate: a community-based cohort study. *Journal of Nephrology* 32: 775-781, 2019
 14. Nakayama A, Morita H, Komuro I. Comprehensive cardiac rehabilitation as a therapeutic strategy for abdominal aortic aneurysm. [Review] *Circulation Reports* 1: 474-480, 2019
 15. Fujiwara T, Takeda N, Ishii S, Morita H, Komuro I. Unique mechanism by which TGFBR1 variants cause 2 distinct system diseases - Loey's-Dietz syndrome and multiple self-healing squamous epithelioma - [Review] *Circulation Reports* 1: 487-492, 2019
 16. Nakayama A, Amiya E, Morita H, Hyodo K, Takayama N, Konishi Y, Taya M,

- Fujiwara T, Hosoya Y, Hoshina K, Komuro I.
The potential of cardiac rehabilitation as a method of suppressing abdominal aortic aneurysm expansion: a pilot study.
Heart and Vessels 34: 2031-2040, 2019
17. Itoh H, Kaneko H, Kiriyama H, Nakanishi K, Mizuno Y, Daimon M, Morita H, Yamamichi N, Komuro I.
Effect of body weight change on blood pressure in a Japanese general population with a body mass index $\geq 22\text{kg/m}^2$: A community-based cohort study
International Heart Journal 60: 1381-1386, 2019
 18. Kiriyama H, Kaneko H, Itoh H, Yoshida Y, Nakanishi K, Mizuno Y, Daimon M, Morita H, Yamamichi N, Komuro I.
Effect of cigarette smoking on carotid artery atherosclerosis: a community-based cohort study.
Heart and Vessels 35: 22-29, 2020
 19. Itoh H, Kaneko H, Kiriyama H, Kamon T, Mizuno Y, Morita H, Yamamichi N, Komuro I.
Association between changes in body weight and fat weight in middle age general population: A community-based cohort study
International Heart Journal 61: 15-20, 2020
 20. Kamon T, Kaneko H, Itoh H, Kiriyama H, Mizuno Y, Morita H, Yamamichi N, Komuro I.
Association between waist circumference and carotid intima-media thickness in the general population.
International Heart Journal 61: 103-108, 2020
 21. Saito A, Amiya E, Hatano M, Shiraishi Y, Nitta D, Minatsuki S, Maki H, Hosoya Y, Tsuji M, Bujo C, Nawata K, Kinoshita O, Kimura M, Endo M, Kagami Y, Nemoto M, Ikeda Y, Morita H, Ono M, Komuro I.
Controlling nutritional status score as a predictive marker for patients with implantable left ventricular assist device.
ASAIO Journal 66: 166-172, 2020
 22. Kaneko H, Morita H, Komuro I.
Beautiful harmony of the Japanese precious healthcare legacies for the new imperial era.
Circulation Journal 84: 371-373, 2020
- 佐藤 幸人 (研究分担者)
1. Yaku H, Kato T, Morimoto T, Inuzuka Y, Tamaki Y, Ozasa N, Yamamoto E, Yoshikawa Y, Kitai T, Taniguchi R, Iguchi M, Kato M, Takahashi M, Jinnai T, Ikeda T, Nagao K, Kawai T, Komasa A, Nishikawa R, Kawase Y, Morinaga T, Toyofuku M, Seko Y, Furukawa Y, Nakagawa Y, Ando K, Kadota K, Shizuta S, Ono K, Sato Y, Kuwahara K, Kimura T.
Association of Mineralocorticoid Receptor Antagonist Use With All-Cause Mortality and Hospital Readmission in Older Adults With Acute Decompensated Heart Failure.
JAMA Netw Open 2019 Jun 5; 2(6):e195892.
 2. Kuragaichi T, Kataoka Y, Miyakoshi C, Miyamoto T, Sato Y. External validation of pooled cohort equations using systolic blood pressure intervention trial data. *BMC Res Notes* 2019;12:271.
 3. Kurozumi Y, Oishi S, Sugano Y, Sakashita A, Kotooka N, Suzuki M, Higo T, Yumino D, Takada Y, Maeda S, Yamabe S, Washida K, Takahashi T, Ohtani T, Sakata Y, Sato Y. Possible associations between palliative care conferences and positive outcomes when performing palliative care for patients with end-stage heart failure: a nationwide cross-sectional questionnaire survey. *Heart Vessels* 2019; 34:452-461.
- 筒井 裕之 (研究分担者)
1. Sobirin M. A., Herry Y, Sofia S. N., Uddin I, Rifqi S and Tsutsui H. Effects of coenzyme Q10 supplementation on diastolic function in patients with heart failure with preserved ejection fraction. *Drug Discov Ther* 13(1):38-46, 2019
 2. Sunagawa G, Saku K, Arimura T, Nishikawa T, Mannoji H, Kamada K, Abe

K, Kishi T, Tsutsui H and Sunagawa K. Mechano-chronotropic unloading during the acute phase of myocardial infarction markedly reduces infarct size via the suppression of myocardial oxygen consumption. *J Cardiovasc Transl Res* 12(2):124-134, 2019 2019 Apr

3. Nakada Y, Kawakami R, Matsushima S, Ide T, Kanaoka K, Ueda T, Ishihara S, Nishida T, Onoue K, Soeda T, Okayama S, Watanabe M, Okura H, Tsuchihashi-Makaya M, Tsutsui H and Saito Y. Simple risk score to predict survival in acute decompensated heart failure- A2B score. *Circ J* 83(5):1019-1024, 2019 2019 Apr 25
4. Matsuura T, Shinohara K, Iyonaga T, Hirooka Y and Tsutsui H. Prior exposure to placental ischemia causes increased salt sensitivity of blood pressure via vasopressin production and secretion in postpartum rats. *J Hypertens* 37(8):1657-1667, 2019 2019 Aug
5. Ohtani K, Fujino T, Ide T, Funakoshi K, Sakamoto I, Hiasa K. I., Higo T, Kamezaki K, Akashi K and Tsutsui H. Recovery from left ventricular dysfunction was associated with the early introduction of heart failure medical treatment in cancer patients with anthracycline-induced cardiotoxicity. *Clin Res Cardiol* 108(6):600-611, 2019 Jun

福本 義弘 (研究分担者)

1. Adachi H, Enomoto M, Fukami A, Nakamura S, Nohara Y, Kono S, Sakaue A, Hamamura H, Toyomasu K, Yamamoto M, Umeki Y, Fukumoto Y. Trends in nutritional intake and coronary risk factors over 60 years among Japanese men in Tanushimaru. *Heart Vessels*. 2020 Jan 29. doi: 10.1007/s00380-020-01561-9.
2. Nohara-Shitama Y, Adachi H, Enomoto M, Fukami A, Nakamura S, Kono S, Morikawa N, Sakaue A, Hamamura H, Toyomasu K, Fukumoto Y. Habitual coffee intake reduces all-cause mortality by decreasing heart rate. *Heart Vessels*. 2019;

34:1823-1829.

3. Morikawa N, Adachi H, Enomoto M, Fukami A, Kumagai E, Nakamura S, Nohara Y, Nakao E, Kono S, Tsuru T, Sakaue A, Hamamura H, Fukumoto Y. Thrombospondin-2 as a potential risk factor in a general population. *Int Heart J*. 2019; 60: 310-317.

森田 啓行 (研究分担者)

1. Tsuji M, Amiya E, Hatano M, Nitta D, Maki H, Bujo C, Saito A, Hosoya Y, Minatsuki S, Hara T, Nemoto M, Kagami Y, Endo M, Kimura M, Kinoshita O, Nawata K, Morita H, Ono M, Komuro I. Abdominal skeletal muscle mass as a predictor of mortality in Japanese patients undergoing left ventricular assist device implantation. *ESC Heart Failure* 6: 526-535, 2019
2. Kodera S, Morita H, Kiyosue A, Ando J, Komuro I. Cost-effectiveness of percutaneous coronary intervention compared with medical therapy for ischemic heart disease in Japan. *Circulation Journal* 83: 1498-1505, 2019
3. Kiriya H, Kaneko H, Itoh H, Uehara M, Kodera S, Kiyosue A, Yamauchi H, Daimon M, Ando J, Morita H, Ono M, Komuro I. Left main coronary artery obstruction by huge noncoronary cusp calcification after transcatheter aortic valve replacement. *JACC Cardiovascular Interventions* 12: 1285-1287, 2019
4. Itoh H, Kaneko H, Kiriya H, Yoshida Y, Nakanishi K, Mizuno Y, Daimon M, Morita H, Yatomi Y, Komuro I. Relationship between the updated blood pressure classification according to the American College of Cardiology/American Heart Association guidelines and carotid intima-media thickness. *American Journal of Cardiology* 124: 396-401, 2019
5. Komuro I, Kaneko H, Morita H, Isobe M,

- Nakayama H, Minematsu K, Yamaguchi T, Yazaki Y.
Nationwide actions against heart failure pandemic in Japan-What should we do from academia?-
Circulation Journal 83: 1819-1821, 2019
6. Nakayama A, Morita H, Fujiwara T, Komuro I.
Effects of treatment by female cardiologists on short-term readmission rates of patients hospitalized with cardiovascular diseases.
Circulation Journal 83: 1937-1943, 2019
 7. Kiriya H, Koda S, Minatsuki S, Kaneko H, Kikuchi H, Kiyosue A, Toko H, Daimon M, Ando J, Morita H, Komuro I.
Short-term and long-term efficacy of drug-coated balloon for in-stent restenosis in hemodialysis patients with coronary artery disease.
International Heart Journal 60: 1070-1076, 2019
 8. Yoshida Y, Nakanishi K, Daimon M, Ishiwata J, Sawada N, Hirokawa M, Kaneko H, Nakao T, Mizuno Y, Morita H, Di Tullio MR, Homma S, Komuro I.
Alteration of cardiac performance and serum B-type natriuretic peptide level in healthy aging.
Journal of the American College of Cardiology 74: 1789-1800, 2019
 9. Ko T, Fujita K, Nomura S, Uemura Y, Yamada S, Tobita T, Katoh M, Satoh M, Ito M, Domoto Y, Hosoya Y, Amiya E, Hatano M, Morita H, Fukayama M, Aburatani H, Komuro I.
Quantification of DNA damage in heart tissue as a novel prediction tool for therapeutic prognosis of patients with dilated cardiomyopathy.
JACC Basic to Translational Science 4: 670-680, 2019
 10. Nakayama A, Amiya E, Morita H, Hyodo K, Takayama N, Konishi Y, Taya M, Fujiwara T, Hosoya Y, Hoshina K, Komuro I.
The potential of cardiac rehabilitation as a method of suppressing abdominal aortic aneurysm expansion: a pilot study.
Heart and Vessels 34: 2031-2040, 2019
 11. Itoh H, Kaneko H, Kiriya H, Nakanishi K, Mizuno Y, Daimon M, Morita H, Yamamichi N, Komuro I.
Effect of body weight change on blood pressure in a Japanese general population with a body mass index $\geq 22\text{kg/m}^2$: A community-based cohort study
International Heart Journal 60: 1381-1386, 2019
 12. Kiriya H, Kaneko H, Itoh H, Yoshida Y, Nakanishi K, Mizuno Y, Daimon M, Morita H, Yamamichi N, Komuro I.
Effect of cigarette smoking on carotid artery atherosclerosis: a community-based cohort study.
Heart and Vessels 35: 22-29, 2020
 13. Itoh H, Kaneko H, Kiriya H, Kamon T, Mizuno Y, Morita H, Yamamichi N, Komuro I.
Association between changes in body weight and fat weight in middle age general population: A community-based cohort study
International Heart Journal 61: 15-20, 2020
 14. Kamon T, Kaneko H, Itoh H, Kiriya H, Mizuno Y, Morita H, Yamamichi N, Komuro I.
Association between waist circumference and carotid intima-media thickness in the general population.
International Heart Journal 61: 103-108, 2020
 15. Kaneko H, Morita H, Komuro I.
Beautiful harmony of the Japanese precious healthcare legacies for the new imperial era.
Circulation Journal 84: 371-373, 2020
- 弓野 大 (研究分担者)
1. Japan Cardiology Clinic Network/循環器開業医が語る「内科開業医のための循環器診療プラクティス」2020年4月発行, 株式会社メディカ出版, 弓野 大編著

2. 「外来・在宅医療の緩和ケア」Modern Physician, 循環器緩和ケアの実際, 1003-1006, 2019年11月

(令和2年度)

磯部 光章 (研究代表者)

1. Nakayama H, Minegishi K, Yamaguchi T, Miyamoto T, Isobe M, Komuro I, Yazaki Y: Approval of Stroke and Cardiovascular Disease Control Act in Japan: Comprehensive nationwide approach for prevention, treatment and patient's support. Int J Stroke 15: 7-8, 2019
2. Komuro I, Kaneko H, Morita H, Isobe M, Nakayama H, Minematsu K, Yamaguchi T, Yazaki Y: Nationwide Actions against Heart Failure Pandemic in Japan-What should we do from academia?-.Circ J 83(9):1819-1821, 2019
3. Isobe M: The Heart Failure "Pandemic" in Japan: Reconstruction of Health Care System in the Highly Aged Society. JMA J 2(2): 103-112, 2019
4. Saitoh M, Saji M, Kozono-Ikeya A, Arimitsu T, Sakuyama A, Ueki H, Nagayama M, Isobe M: Hospital-acquired functional decline and clinical outcomes in older patients undergoing transcatheter aortic valve implantation. Circ J.2020;84(7):1083-1089
5. 磯部光章、小室一成、羽鳥 裕、弓野 大、江浪武志：特集 心不全パンデミック 急増する高齢者心不全-循環器病対策基本法の下でどのように対応していくか 日本医師会雑誌 第149巻 第3号 2020年6月 p 473-486
6. Kamiya K, Sato Y, Takahashi T, Tsuchihashi-Makaya M, Kotooka N, Ikegame T, Takura T, Yamamoto T, Nagayama M, Goto Y, Makita S, Isobe M: Multidisciplinary cardiac rehabilitation and long-term prognosis in patients with Heart Failure. Circ Heart Fail on line 2020.9.29
7. 水野 篤, 伊東紀揮, 齋藤慶子, 根井あずさ, 関下禅美, 根田一成, 服部絵美, 堀部秀夫, 池

亀俊美, 渡辺徳, 齊藤正和, 磯部光章: 心不全における, かかりつけ医と多職種連携・協働における要点の探索-退院支援テンプレートの解析から見えてきたもの- 心臓 第52巻 第6号 (6月号) 594-606, 2020

8. Shoji S, Kohsaka S, Shiraishi Y, Oishi S, Kato M, Shiota S, Takada Y, Mizuno A, Yumino D, Yokoyama H, Watanabe N, Isobe M: Appropriateness rating for the application of optimal medical therapy and multidisciplinary care among heart failure patients. ESC heart Fail 8: 300-308, 2021
9. Obata H, Izumi T, Yamashita M, Mitsuma W, Suzuki K, Noto S, Mirimoto T, Isobe M: Characteristics of Elderly Patients with Heart Failure and Impact on Activities of Daily Living. A Registry Report from Super-Aged Society. J Cardiac Failure, in press

ガイドライン・ガイドブック

5. Tsutsui H, Isobe M, Ito H, Ito H, Okumura K, Ono M, Kitakaze M, Kinugawa K, Kihara Y, Goto Y, Komuro I, Saiki Y, Saito Y, Sakata Y, Sato N, Sawa Y, Shiose A, Shimizu W, Shimokawa H, Seino Y, Node K, Higo T, Hirayama A, Makaya M, Masuyama T, Murohara T, Momomura S, Yano M, Yamazaki K, Yamamoto K, Yoshikawa T, Yoshimura M, Akiyama M, Anzai T, Ishihara S, Inomata T, Imamura T, Iwasaki Y, Ohtani T, Onishi K, Kasai T, Kato M, Kawai M, Kinugasa Y, Kinugawa S, Kuratani T, Kobayashi S, Sakata Y, Tanaka A, Toda K, Noda T, Nochioka K, Hatano M, Hidaka T, Fujino T, Makita S, Yamaguchi O, Ikeda U, Kimura T, Kohsaka S, Kosuge M, Yamagishi M, Yamashina A on behalf of the Japanese Circulation Society and the Japanese Heart Failure Society Joint Working Group: JCS 2017/JHFS 2017 Guideline on Diagnosis and Treatment of Acute and Chronic Heart Failure -Digest Version-. Circ J 83 (10):2084-2184, 2019

(班長)

1. 地域のかかりつけ医と多職種のための心不全診療ガイドブック (オンライン) shinfuzen_guidebook (6).pdf

2. 心不全における介護サービスの活用方法Q&A(オンライン)
kaigo_service_qa (6).pdf
3. 心不全教育スライド PowerPoint プレゼンテーション (umin. ac. jp)

(班員等)

1. 血管炎症候群の診療ガイドライン改訂版(班長) 2018、英文 2020 2. 心臓アミロイドーシス(外部評価委員) 2020

政府提言

1. 厚生労働省:循環器病対策基本推進計画 2020 年 10 月 27 日閣議決定・循環器病対策推進協議会委員として参画

安齊 俊久 (研究分担者)

1. Hamatani Y, Takada Y, Miyamoto Y, Kawano Y, Anchi Y, Shibata T, Suzuki A, Nishikawa M, Ito H, Kato M, Shiga T, Fukumoto Y, Izumi C, Yasuda S, Ogawa H, Sugano Y, Anzai T. Development and practical test of quality indicators for palliative care in patients with chronic heart failure. *Circ J* 2020; 84: 584-591.
2. Kawaguchi J, Hamatani Y, Hirayama A, Nishimura K, Nakai E, Nakamura E, Miyata M, Kawano Y, Takada Y, Anchi Y, Funabashi S, Kuroda K, Azechi M, Takahama H, Anzai T, Yasuda S, Kitaoka H, Izumi C. Experience of morphine therapy for refractory dyspnea as palliative care in advanced heart failure patients. *J Cardiol* 2020; 75: 682-688.
3. Mizuno A, Miyashita M, Oishi S, Tokuda Y, Fujimoto S, Nakamura M, Takayama M, Niwa K, Fukuda T, Ishimatsu S, Kinoshita S, Kohno T, Mochizuki H, Utsunomiya A, Takada Y, Ochiai R, Mochizuki T, Nagao K, Yoshida S, Hayashi A, Sekine R, Anzai T. Quality indicators in palliative care for acute heart disease. *J Cardiol* 2020; 76: 177-183.
4. Anzai T, Sato T, Fukumoto Y, Izumi C, Kizawa Y, Koga M, Nishimura K, Ohishi M, Sakashita A, Sakata Y, Shiga T, Takeishi Y,

Yasuda S, Yamamoto K, Abe T, Akaho R, Hamatani Y, Hosoda H, Ishimori N, Kato M, Kinugasa Y, Kubozono T, Nagai T, Oishi S, Okada K, Shibata T, Suzuki A, Suzuki T, Takagi M, Takada Y, Tsuruga K, Yoshihisa A, Yumino D, Fukuda K, Kihara Y, Saito Y, Sawa Y, Tsutsui H, Kimura T. *JCS 2021/JHFS 2021 Statement on palliative care in cardiovascular diseases. Circ J* 2020 e-pub ahead of print.

5. 安齊俊久. 注目される緩和ケア—ACP とチームビルディング—. *Cardiac Practice* 2019; 30: 134-138.

ガイドライン

1. 日本循環器学会/日本心不全学会 循環器疾患における緩和ケアについての提言 (班長: 安齊俊久). 2020 年 3 月公開

江頭 正人 (研究分担者)

1. 山田容子, 江頭正人. 増加する後期高齢心房細動患者への対応. *Current Therapy* 2019;37:60-4.

木原 康樹 (研究分担者)

1. Okamura S, Onohara Y, Ochi H, Tokuyama T, Hironobe N, Okubo Y, Ikeuchi Y, Miyauchi S, Chayama K, Kihara Y, Nakano Y. Minor allele of GJA1 genepolymorphism is associated with higher heart rate during atrial fibrillation. *Sci Rep.* 2021 Jan 28;11(1):2549. doi: 10.1038/s41598-021-82117-3.
2. Kitagawa T, Hidaka T, Naka M, Nakayama S, Yuge K, Isobe M, Kihara Y; REAL-HF Investigators. Current Medical and Social Issues for Hospitalized Heart Failure Patients in Japan and Factors for Improving Their Outcomes - Insights From the REAL-HF Registry. *Circ Rep.* 2020 Mar 14;2(4):226-234. doi:10.1253/circrep.CR-20-0011.
3. Kinoshita H, Sairaku A, Morishima N, Dohi Y, Sada Y, Higashi A, Yamabe S, Kihara Y. Prognostic significance of oscillatory ventilation at rest in patients with advanced heart failure undergoing cardiopulmonary exercise testing. *Int J*

Cardiol. 2020 Feb 15;301:142-146.

doi: 10.1016/j.ijcard.2019.11.098. Epub 2019 Nov 12.

4. Mizukawa M, Moriyama M, Yamamoto H, Rahman MM, Naka M, Kitagawa T, Kobayashi S, Oda N, Yasunobu Y, Tomiyama M, Morishima N, Matsuda K, Kihara Y. Nurse-Led Collaborative Management Using Telemonitoring Improves Quality of Life and Prevention of Rehospitalization in Patients with Heart Failure. *Int Heart J.* 2019 Nov 30;60(6):1293-1302. doi: 10.1536/ihj.19-313. Epub 2019 Nov 15.
5. Utsunomiya H, Harada Y, Susawa H, Takahari K, Ueda Y, Izumi K, Itakura K, Ikenaga H, Hidaka T, Fukuda Y, Shiota T, Kihara Y. Comprehensive Evaluation of Tricuspid Regurgitation Location and Severity Using Vena Contracta Analysis: A Color Doppler Three-Dimensional Transesophageal Echocardiographic Study. *J Am Soc Echocardiogr.* 2019 Dec;32(12):1526-1537.e2. doi: 10.1016/j.echo.2019.07.022. Epub 2019 Sep 25.

香坂 俊 (研究分担者)

1. Shiraishi Y, Kawana M, Nakata J, Sato N, Fukuda K, Kohsaka S. Time-sensitive approach in the management of acute heart failure. *ESC Heart Fail.* 2020 Dec 9. doi: 10.1002/ehf2.13139.
2. Kohsaka S, Sandhu AT, Parizo JT, Shoji S, Kumamamru H, Heidenreich PA. Association of Diagnostic Coding-Based Frailty and Outcomes in Patients With Heart Failure: A Report From the Veterans Affairs Health System. *J Am Heart Assoc.* 2020 Dec 7:e016502. doi: 10.1161/JAHA.120.016502.
3. Shoji S, Kohsaka S, Shiraishi Y, Oishi S, Kato M, Shiota S, Takada Y, Mizuno A, Yumino D, Yokoyama H, Watanabe N, Isobe M. Appropriateness rating for the application of optimal medical therapy and multidisciplinary care among heart failure patients. *ESC Heart Fail.* 2020 Nov 17. doi: 10.1002/ehf2.13062.

4. Kohsaka S, Lam CSP, Kim DJ, Cavender MA, Norhammar A, Jørgensen ME, Birkeland KI, Holl RW, Franch-Nadal J, Tangri N, Shaw JE, Ilomäki J, Karasik A, Goh SY, Chiang CE, Thuresson M, Chen H, Wittbrodt E, Bodegård J, Surmont F, Fenici P, Kosiborod M; CVD-REAL 2 Investigators and Study Group. Risk of cardiovascular events and death associated with initiation of SGLT2 inhibitors compared with DPP-4 inhibitors: an analysis from the CVD-REAL 2 multinational cohort study. *Lancet Diabetes Endocrinol.* 2020 Jul;8(7):606-615. doi: 10.1016/S2213-8587(20)30130-

ガイドライン

1. Yamagishi M, Tamaki N, Akasaka T, Ikeda T, Ueshima K, Uemura S, Otsuji Y, Kihara Y, Kimura K, Kimura T, Kusama Y, Kumita S, Sakuma H, Jinzaki M, Daida H, Takeishi Y, Tada H, Chikamori T, Tsujita K, Teraoka K, Nakajima K, Nakata T, Nakatani S, Nogami A, Node K, Nohara A, Hirayama A, Funabashi N, Miura M, Mochizuki T, Yokoi H, Yoshioka K, Watanabe M, Asanuma T, Ishikawa Y, Ohara T, Kaikita K, Kasai T, Kato E, Kamiyama H, Kawashiri M, Kiso K, Kitagawa K, Kido T, Kinoshita T, Kiriyama T, Kume T, Kurata A, Kurisu S, Kosuge M, Kodani E, Sato A, Shiono Y, Shiomi H, Taki J, Takeuchi M, Tanaka A, Tanaka N, Tanaka R, Nakahashi T, Nakahara T, Nomura A, Hashimoto A, Hayashi K, Higashi M, Hiro T, Fukamachi D, Matsuo H, Matsumoto N, Miyauchi K, Miyagawa M, Yamada Y, Yoshinaga K, Wada H, Watanabe T, Ozaki Y, Kohsaka S, Shimizu W, Yasuda S, Yoshino H; Japanese Circulation Society Working Group. JCS 2018 Guideline on Diagnosis of Chronic Coronary Heart Diseases. *Circ J.* 2021 Mar 25;85(4):402-572.
2. 「2021年 JCS/JHFS ガイドライン フォーカスアップデート版 急性・慢性心不全診療 (日本循環器学会)」

その他

1. 「第二次 脳卒中と循環器病克服5カ年計画 (日本脳卒中学会・日本循環器学会)」

2. 「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言下の心血管病診療における日本循環器連合緊急声明」

後藤 葉一 (研究分担者)

1. Takura T, Ebata-Kogure N, Goto Y, Kohzuki M, Nagayama M, Oikawa K, Koyama T, Itoh H. Cost-Effectiveness of Cardiac Rehabilitation in Patients with Coronary Artery Disease: A Meta-Analysis. *Cardiol Res Pract.* 2019 Jun 4; 2019:1840894.
2. Nakanishi M, Miura H, Nakao K, Fujino M, Arakawa T, Fukui S, Hasegawa T, Yanase M, Noguchi T, Goto Y, Yasuda S. Combination of Peak Exercise Systolic Blood Pressure and Left Atrial Diameter as a Novel Non-Spirometry Prognostic Predictor Comparable to Peak Oxygen Uptake for Heart Failure With Reduced Ejection Fraction. *Circ J.* 2019; 83:1528-1537.
3. Izawa H, Yoshida T, Ikegame T, Izawa KP, Ito Y, Okamura H, Osada N, Kinugawa S, Kubozono T, Kono Y, Kobayashi K, Nishigaki K, Higo T, Hirashiki A, Miyazawa Y, Morio Y, Yanase M, Yamada S, Ikeda H, Momomura S, Kihara Y, Yamamoto K, Goto Y, Makita S; Japanese Association of Cardiac Rehabilitation Standard Cardiac Rehabilitation Program Planning Committee. Standard Cardiac Rehabilitation Program for Heart Failure. *Circ J.* 2019; 83:2394-2398.
4. 後藤葉一. わが国の循環器医療提供体制の現状と今後のあり方: 退院後疾病管理における運動・栄養介入の重要性. *循環器専門医* 28: 57-66, 2019
5. 後藤葉一. 心臓リハビリテーションのエビデンス. *循環器ジャーナル* 67: 166-176, 2019

ガイドライン

1. Tsutsui H, Isobe M, Ito H, Ito H, Okumura K, Ono M, Kitakaze M, Kinugawa K, Kihara Y, Goto Y, Komuro I, Saiki Y, Saito Y, Sakata Y, Sato N, Sawa Y, Shiose A,

Shimizu W, Shimokawa H, Seino Y, Node K, Higo T, Hirayama A, Makaya M, Masuyama T, Murohara T, Momomura S, Yano M, Yamazaki K, Yamamoto K, Yoshikawa T, Yoshimura M, Akiyama M, Anzai T, Ishihara S, Inomata T, Imamura T, Iwasaki YK, Ohtani T, Onishi K, Kasai T, Kato M, Kawai M, Kinugasa Y, Kinugawa S, Kuratani T, Kobayashi S, Sakata Y, Tanaka A, Toda K, Noda T, Nochioka K, Hatano M, Hidaka T, Fujino T, Makita S, Yamaguchi O, Ikeda U, Kimura T, Kohsaka S, Kosuge M, Yamagishi M, Yamashina A; Japanese Circulation Society and the Japanese Heart Failure Society Joint Working Group. *JCS 2017/JHFS 2017 Guideline on Diagnosis and Treatment of Acute and Chronic Heart Failure - Digest Version.* *Circ J.* 2019;83:2084-2184.

小室 一成 (研究分担者)

1. Komuro I, Kaneko H, Morita H, Isobe M, Nakayama H, Minematsu K, Yamaguchi T, Yazaki Y. Nationwide actions against heart failure pandemic in Japan-What should we do from academia?- *Circulation Journal* 83: 1819-1821, 2019
2. Kaneko H, Morita H, Komuro I. Beautiful harmony of the Japanese precious healthcare legacies for the new imperial era. *Circulation Journal* 84: 371-373, 2020
3. Nakayama A, Morita H, Komuro I. Female cardiologists in Japan. *International Journal of Quality in Health Care* 32: 278-280, 2020
4. Kaneko H, Itoh H, Kamon T, Fujiu K, Morita K, Michihata N, Jo T, Morita H, Yasunaga H, Komuro I. Association of cardiovascular health metrics with subsequent cardiovascular disease in young adults. *Journal of the American College of Cardiology* 76: 2414-2416, 2020
5. Kaneko H, Itoh H, Yotsumoto H, Kiriyama H, Kamon T, Fujiu K, Morita K, Michihata N, Jo T, Takeda N, Morita H, Yasunaga H, Komuro I. Impact of hospital volume on clinical outcomes of hospitalized heart

failure patients: analysis of a nationwide database including 447,818 patients with heart failure. *BMC Cardiovascular Disorders* 21:49, 2021

10. 佐藤幸人 心不全緩和ケア 心不全診療アップグレード 佐藤幸人 編集 2021. 3. 16 日本医事新報社 p. 245-249.

提言

1. 日本脳卒中学会・日本循環器学会「脳卒中と循環器病克服第二次5ヵ年計画」(2021年3月)

齊藤 正和 (研究分担者)

1. 齊藤正和、磯部光章【循環器リハビリテーション update】「ストップCVD」におけるリハビリテーションの意義 循環器病対策基本法の制定を受けて循環器内科. 2019; 86 (5): 544-550. 令和元年11月 科学評論社

佐藤 幸人 (研究分担者)

1. 佐藤幸人: 心不全と低栄養 (「臨床栄養」2019:134(4):440-446 医歯薬出版株式会社) 2019. 3
2. 佐藤幸人: 心不全における緩和ケア (「日本循環器看護学会誌」2019:14(2):15-16 日本循環器看護学会) 2019. 4
3. 佐藤幸人: 心不全の緩和ケア (「ICU と CCU」2019:43(5):283-290 医学図書出版株式会社) 2019. 6
4. 佐藤幸人: 病期ごとの心不全チーム医療 *Heart View* 2020: 24:529-532. メジカルビュー社
5. 佐藤幸人: 多職種連携による診療の在り方 *日医雑誌* 2020;149:519-523. 日本医師会
6. 佐藤幸人: 心不全における低栄養とその管理 *循環器科* 2020;87:741-746. 科学評論社
7. 佐藤幸人: 心不全患者に対する緩和ケアの現状と課題 *薬局* 2021;72:227-231. 南山堂
8. 佐藤幸人 心不全のチーム医療 心不全診療アップグレード 佐藤幸人 編集 2021. 3. 16 日本医事新報社 p. 180-185.
9. 佐藤幸人 心不全にみられる低栄養 心不全診療アップグレード 佐藤幸人 編集 2021. 3. 16 日本医事新報社 p. 230-234.

筒井 裕之 (研究分担者)

1. Anker S. D, Butler J, Filippatos G, Khan M. S, Ferreira J. P, Bocchi E, Böhm M, Rocca H. P. B, Choi D. J, Chopra V, Chuquiure E, Giannetti N, Gomez-Mesa J. E, Janssens S, Januzzi J. L, Gonzalez-Juanatey J. R, Merkely B, Nicholls S. J, Perrone S. V, Piña I. L, Ponikowski P, Senni M, Seronde M. F, Sim D, Spinar J, Squire I, Taddei S, Tsutsui H, Verma S, Vinereanu D, Zhang J, Jamal W, Schnaidt S, Schnee J. M, Brueckmann M, Pocock S. J, Zannad F, Packer M. Baseline characteristics of patients with heart failure with preserved ejection fraction in the EMPEROR-preserved trial. *Eur J Heart Fail* 22(12):2383-2392, 2020
2. Bozkurt B, Coats A. J. S, Tsutsui H, Abdelhamid C. M, Adamopoulos S, Albert N, Anker S. D, Atherton J, Böhm M, Butler J, Drazner M. H, Felker G. M, Filippatos G, Fiuzat M, Fonarow G. C, Gomez-Mesa J. E, Heidenreich P, Imamura T, Jankowska E. A, Januzzi J, Khazanie P, Kinugawa K, Lam C. S. P, Matsue Y, Metra M, Ohtani T, Piepoli M. F, Ponikowski P, Rosano G. M. C, Sakata Y, Seferović P, Starling R. C, Teerlink J. R, Vardeny O, Yamamoto K, Yancy C, Zhang J, Zieroth S. Universal definition and classification of heart failure: a report of the heart failure society of America, heart failure association of the European society of cardiology, Japanese heart failure society and writing committee of the universal definition of heart failure: endorsed by Canadian heart failure society, heart failure association of India, the cardiac society of Australia and New Zealand, and the Chinese heart failure association. *Eur J Heart Fail* in press, 2021
3. Kaku H, Funakoshi K, Ide T, Fujino T, Matsushima S, Ohtani K, Higo T, Nakai M, Sumita Y, Nishimura K, Miyamoto Y, Anzai T, Tsutsui H. Impact of hospital practice factors on mortality in patients

- hospitalized for heart failure in Japan- an analysis of a large number of health records from a nationwide claims-based database, the JROAD-DPC. *Circ J* 84(5):742-753, 2020
4. Packer M, Anker S. D, Butler J, Filippatos G, Ferreira J. P, Pocock S. J, Rocca H. B, Janssens S, Tsutsui H, Zhang J, Brueckmann M, Jamal W, Cotton D, Iwata T, Schnee J, Zannad F. Influence of neprilysin inhibition on the efficacy and safety of empagliflozin in patients with chronic heart failure and a reduced ejection fraction: the EMPEROR-Reduced trial. *Eur Heart J* 42(6):671-680, 2021
 5. Packer M, Anker S. D, Butler J, Filippatos G, Pocock S. J, Carson P, Januzzi J, Verma S, Tsutsui H, Brueckmann M, Jamal W, Kimura K, Schnee J, Zeller C, Cotton D, Bocchi E, Böhm M, Choi D. J, Chopra V, Chuquiure E, Giannetti N, Janssens S, Zhang J, Gonzalez Juanatey J. R, Kaul S, Brunner-La Rocca H. P, Merkely B, Nicholls S. J, Perrone S, Pina I, Ponikowski P, Sattar N, Senni M, Seronde M. F, Spinar J, Squire I, Taddei S, Wanner C, Zannad F. Cardiovascular and renal outcomes with empagliflozin in heart failure. *N Engl J Med* 383(15):1413-1424, 2020
 6. Stefan D Anker, Javed Butler, Muhammad Shahzeb Khan, William T Abraham, Johann Bauersachs, Edimar Bocchi, Biykem Bozkurt, Eugene Braunwald, Vijay K Chopra, John G Cleland, Justin Ezekowitz, Gerasimos Filippatos, Tim Friede, Adrian F Hernandez, Carolyn S P Lam, JoAnn Lindenfeld, John J V McMurray, Mandeep Mehra, Marco Metra, Milton Packer, Burkert Pieske, Stuart J Pocock, Piotr Ponikowski, Giuseppe M C Rosano, John R Teerlink, Tsutsui H, Dirk J Van Veldhuisen, Subodh Verma, Adriaan A Voors, Janet Wittes, Faiez Zannad, Jian Zhang, Petar Seferovic, Andrew J S Coats. Conducting clinical trials in heart failure during (and after) the COVID-19 pandemic: an expert consensus position paper from the heart failure association (HFA) of the European society of cardiology (ESC). *European Heart Journal* 41(22):2109-2117, 2020
 7. Tadokoro T, Ikeda M, Ide T, Deguchi H, Ikeda S, Okabe K, Ishikita A, Matsushima S, Koumura T, Yamada K. I, Imai H, Tsutsui H. Mitochondria-dependent ferroptosis plays a pivotal role in doxorubicin cardiotoxicity. *JCI Insight* 5(9):e132747, 2020
 8. Tschöpe C, Ammirati E, Bozkurt B, Caforio A. L. P., Cooper L. T., Felix S. B., Hare J. M., Heidecker B, Heymans S, Hübner N, Kelle S, Klingel K, Maatz H, Parwani A. S., Spillmann F., Starling R. C., Tsutsui H, Seferovic P, Van Linthout S. Myocarditis and inflammatory cardiomyopathy: current evidence and future directions. *Nat Rev Cardiol* 18(3):169-193, 2021
 9. Yamamoto K, Tsuchihashi-Makaya M, Kinugasa Y, Iida Y, Kamiya K, Kihara Y, Kono Y, Sato Y, Suzuki N, Takeuchi H, Higo T, Miyazawa Y, Miyajima I, Yamashina A, Yoshita K, Washida K, Kuzuya M, Takahashi T, Nakaya Y, Hasebe N, Tsutsui H. Japanese heart failure society 2018 scientific statement on nutritional assessment and management in heart failure patients. *Circ J* 84(8):1408-1444, 2020
 10. Tsutsui H, Momomura S. I, Saito Y, Ito H, Yamamoto K, Sakata Y, Desai A. S, Ohishi T, Iimori T, Kitamura T, Guo W. Efficacy and safety of sacubitril/valsartan in Japanese patients with chronic heart failure and reduced ejection fraction - Results from the PARALLEL-HF study. *Circ J* in press, 2021
- 福本 義弘 (研究分担者)
1. Ohshima H, Adachi H, Enomoto M, Fukami A, Nakamura S, Nohara Y, Sakaue A, Morikawa N, Hamamura H, Toyomasu K, Yamamoto M, Fukumoto Y. Association between growth hormone and hypertension in a general population. *Hypertens Res.* 2020;43:1430-1436. doi: 10.1038/s41440-020-0500-7.
 2. Sasaki KI, Kakuma T, Sasaki M, Ishizaki Y,

Fukami A, Enomoto M, Adachi H, Matsuse H, Shiba N, Ueno T, Fukumoto Y. The prevalence of sarcopenia and subtypes in cardiovascular diseases, and a new diagnostic approach. J Cardiol. 2020; 76: 266-272. doi: 10.1016/j.jjcc.2020.03.004.

3. Takahashi J, Yamamoto M, Yasukawa H, Nohara S, Nagata T, Shimozono K, Yanai T, Sasaki T, Okabe K, Shibata T, Mawatari K, Kakuma T, Aoki H, Fukumoto Y. Interleukin-22 directly activates myocardial STAT3 (Signal Transducer and Activator of Transcription-3) signaling pathway and prevents myocardial ischemia reperfusion injury. J Am Heart Assoc. 2020; 9: e014814. doi: 10.1161/JAHA.119.014814.
4. Sakaue A, Adachi H, Enomoto M, Fukami A, Kumagai E, Nakamura S, Nohara Y, Kono S, Nakao E, Morikawa N, Tsuru T, Hamamura H, Yoshida N, Fukumoto Y. Association between physical activity, occupational sitting time and mortality in a general population: An 18-year prospective survey in Tanushimaru, Japan. Eur J Prev Cardiol. 2020; 27: 758-766. doi: 10.1177/2047487318810020.
5. Suzuki H, Matsumoto Y, Sugimura K, Takahashi J, Miyata S, Fukumoto Y, Taki Y, Shimokawa H. Impacts of hippocampal blood flow on changes in left ventricular wall thickness in patients with chronic heart failure. Int J Cardiol. 2020;310:103-107. doi: 10.1016/j.ijcard.2020.01.019.

武藤 真祐 (研究分担者)

1. 「日本におけるオンライン診療の概況と現状，ならびに心不全管理における遠隔診療の実践」公益財団法人 日本心臓財団 医学月刊誌「心臓」52 巻 7 号 (2020 年 7 月号)
https://www.jmps.co.jp/heart/heart_52_7.html
2. 演題：「医療の ICT 化の現状と未来ーオンライン診療とオンライン疾患管理の可能性ー」2020/1/25 (土) の講演@岩手県立病院医学の発表内容要旨 岩手県立病院医学会雑誌 第 60 号 第 1 号 2020 年

<https://iwate-pha.sakura.ne.jp/>

3. 「窮地に立たされる医療機関の再編と「地域ヘルスケア連携基盤」の活動」M&A 専門誌 マール 2020 年 10 月号 312 号
<https://www.marr.jp/marr/marr202010/entry/24032>
4. 「高齢の循環器疾患患者における在宅診療」臨床雑誌「内科」126 巻 5 号
<https://www.nankodo.co.jp/g/g3026051/>
5. 「5-1) 在宅・訪問」日本専門医機構 総合診療専門医テキスト 第 1 版
<https://jmsb.or.jp/sogo/>
6. インタビュー記事 Vision と戦略 8 月号巻頭
<https://www.hms-seminar.com/shopping/?pid=1594441844-696284&ca=2>
7. zoom 講演@医療介護の近未来経営と DX 戦略 セミナー記事 Vision と戦略 10 月号特集
<https://www.hms-seminar.com/shopping/?pid=1600316849-978567&p=1&ca=2>
8. 「在宅診療の役割と可能性ー疾患管理と生活支援，今後の可能性を探る」在宅医療と遠隔診療・オンライン座談会 Medical Practice38 巻 1 号《特集：在宅診療と地域医療》
<https://www.bunkodo.co.jp/magazine/JPVU7PU8FY.html?from=backNumber>
9. 「ポストコロナの医療情報」日本医療情報学会誌「医療情報学」40 巻 4 号
<https://www.jami.jp/document/magIndex.php>
10. 「【コラム】今やっているケアとオンライン診療の兼ね合いは？新しい施設運営のかたち」「治療」2021 年 /103 巻 2 月号
<http://www.nanzando.com/journals/chiryo/>
11. 「在宅のオンライン診療もあるって聞いたけど……」「治療」2021 年 /103 巻 2 月号
<http://www.nanzando.com/journals/chiryo/>
12. 「テレメディシンと遠隔診療」※査読あり「日本プライマリ・ケア連合学会 基本研修ハンド

ブ ッ ク 」 改 訂 3 版
<http://www.nanzando.com/books/20212.php>

13. 「アジアにおけるオンライン診療の現状と課題」
月刊『カレントセラピー』(Vol1.39 No. 4)

<https://www.fujisan.co.jp/product/1281691512/b/list/>

14. 「医療機関の類型とそこで求められる総合診療
医の働き方」総合診療専門研修 公式テキスト
ブック

<https://www.nikkeibp.co.jp/atclpubmkt/book/20/281830/>

15. 「心不全のオンライン診療」「日本臨床」心不全
の診療 update 月刊誌「日本臨床」2021年
8月(79巻8号)

http://www.nippon-rinsho.co.jp/g_back.html

16. 高橋泰・武藤真祐・加藤雅之 「新型コロナウイ
ルスの実態を再考するー感染7段階モデル
ver.2の紹介」
『社会保険旬報』2020.10.21号(No.2799
[pp.6-16])

<https://info.shaho.co.jp/iryuu/archives/202010/11707>

17. 高橋泰・武藤真祐・加藤雅之 「新型コロナの実
態予測と今後に向けた提言」『社会保険旬報』
2020.6.21号、7.1号(No.2787 [pp.6-15]、No.2788
[pp.18-28])

<https://info.shaho.co.jp/iryuu/archives/202007/10779>

18. 「在宅救急は COVID-19 といかに立ち向かうの
か！」(査読あり)介護現場における新型コ
ロナウイルス感染拡大予防への示唆 ※刊行年
月日未定

その他

1. 日本医師会 COVID-19 有識者会議

<https://www.covid19-jma-medical-expert-meeting.jp/topic/2196>

2. API:ワーキング・グループメンバーとして参加
https://apinitiative.org/2020/09/29/11105/?fbclid=IwAR3dcro02YApXjwAuxQ3cwdj9ecHyqfUpmgAx_pHkRpNoxR7UyrwpXs4few

森田 啓行 (研究分担者)

1. Nakayama A, Morita H, Fujiwara T, Komuro I. Effects of treatment by female cardiologists on short-term readmission rates of patients hospitalized with cardiovascular diseases. *Circulation Journal* 83: 1937-1943, 2019
2. Nakayama A, Nagayama M, Morita H, Tajima M, Mahara K, Uemura Y, Tomoike H, Komuro I, Isobe M. A large-scale cohort study of long-term cardiac rehabilitation: A prospective cross-sectional study. *International Journal of Cardiology* 309: 1-7, 2020
3. Nakayama A, Takayama N, Kobayashi M, Hyodo K, Maeshima N, Fujiwara T, Morita H, Komuro I. Remote cardiac rehabilitation is a good alternative of outpatient cardiac rehabilitation in the COVID-19 era. *Environmental Health and Preventive Medicine* 25, Article number: 48, 2020
4. Nakayama A, Nagayama M, Morita H, Kawahara T, Komuro I, Isobe M. The use of geographical analysis in assessing the impact of patients' home addresses on their participation in outpatient cardiac rehabilitation: A prospective cohort study. *Environmental Health and Preventive Medicine* 25, Article number: 76, 2020
5. Kaneko H, Itoh H, Kiriyama H, Kamon T, Fujiu K, Morita K, Michihata N, Jo T, Takeda N, Morita H, Yasunaga H, Komuro I. Lipid profile and subsequent cardiovascular disease among young adults aged < 50 years. *American Journal of Cardiology* 142: 59-65, 2021

提言

1. 日本脳卒中学会・日本循環器学会「脳卒中と循環器病克服第二次5ヵ年計画」(2021年3月)

弓野 大 (研究分担者)

1. 「プライマリ・ケア医が知っておくべき心不全診療」治療 Vol.102, No.6 株式会社南山堂(編集幹事:弓野 大)2020年6月発行

2. 「心不全の在宅ケアとは？①総論」心不全診療アップグレード、株式会社日本医事新報社 2021年3月発行
3. 「高齢心不全患者の再入院予防を目的とした地域循環器クリニックでの在宅医療システム構築の取り組み」Therapeutic Research 41巻9号, 713-715, 2020年9月
4. 「心不全診療における地域医療の役割」BIO Clinica 心不全パンデミックへの挑戦, 2021年3月

その他

1. 日本循環器学会ガイドライン「循環器疾患における緩和ケアについての提言」(2021年改訂版) 協力員
2. 日本循環器学会/日本心臓リハビリテーション学会合同ガイドライン「心血管疾患におけるリハビリテーションに関するガイドライン」(2021年改訂版) 班員

2. 学会発表

(平成30年度)

磯部 光章 (研究代表者)

- 学会・シンポジウム等における口頭・ポスター発表
1. 磯部光章 大会特別シンポジウム2 国策としての「ストップCVD」～健康長寿社会の実現に向けて～超高齢社会での心不全診療体制の構築に向けて, 第24回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 横浜, 2018年7月15日
 2. 磯部光章 パネルディスカッション1 我が国における心不全医療体制への新提言: 増え続ける超高齢患者をどうする? 急性期から慢性期を通じた心不全医療提供体制の構築, 第22回日本心不全学会学術集会, 東京, 2018年10月11日
 3. 磯部光章: シンポジウム脳卒中と循環器病克服5ヶ年計画は達成可能か」0次予防から3次予防まで「Countermeasures against cardiovascular diseases」日本循環器学会、横浜、2019年3月30日
 4. 磯部光章: 会長特別企画厚生労働省事業

Effects of multidisciplinary cardiac rehabilitation for patients with heart failure on clinical outcomes and health care costs: Nationwide surveillance, retrospective multicenter cohort study and cohort registration studies (AMED-CHF CR Study). 日本循環器学会、横浜、2019年

安斉 俊久 (研究分担者)

1. 安斉俊久. 心不全緩和ケアの現状と課題. 第23回日本心臓血管麻酔学会学術大会. 特別講演. 2018年9月 東京
2. 安斉俊久. 心不全緩和ケアのニーズと概念. 日本心不全学会/日本循環器心身医学会ジョイントシンポジウム. 第22回日本心不全学会学術集会. 2018年10月 東京

木原 康樹 (研究分担者)

国内学会発表

1. 梶川正人, 森本陽香, 松井翔吾, 小田望, 岸本真治, 橋本東樹, 丸橋達也, 平野陽豊, 日高貴之, 中島歩, 野間玄督, 木原康樹, 鶴川貞二, 辻敏夫, 東幸仁. 動脈硬化性疾患発症予防を目的とした新しい血管内皮機能測定器改良型ezFMDの有用性. 第3回日本血管不全学会学術集会. 2018年4月14日, 神奈川.
2. 丸橋達也, 木原康樹, 富山博史, 東幸仁. 血管不全定義 PWV, FMD, EndoPAT, CAVIについて指針案と発表と討議. 第3回日本血管不全学会学術集会. 2018年4月14日, 神奈川.
3. 宇都宮裕人, 板橋裕史, 小林さゆき, 吉田純, 池永寛樹, 日高貴之, 木原康樹, Alfredo Trento, Sibal Kar, 塩田隆弘. 経カテーテル的僧帽弁形成術 (MitraClip) が僧帽弁形態に与える影響—機能性僧帽弁逆流における検討—. 日本心エコー図学会第29回学術集会. 2018年4月26-28日, 岩手.
4. 須澤仁, 日高貴之, 泉可奈子, 原田侑, 木下未来, 板倉希帆, 宇都宮裕人, 木原康樹. 無症候性の一次性重症僧帽弁閉鎖不全症 患者における、最大酸素摂取量と最大運動負荷時の肺動脈楔入圧の予測因子の検討. 日本心エコー図学会第29回学術集会. 2018年4月26-28日, 岩手.
5. 木原康樹. 心不全を評価する、心不全に対処する. 第22回日本心臓血管内分泌代謝学会学術集会.

2018年4月29日,宮崎.

治療学会学術集会. 2018年7月8日,大阪.

6. 渡邊信寛,石橋堅,新田和宏,宇都宮裕人,西樂顕典,北川知郎,日高貴之,福田幸弘,栗栖智,中野由紀子,山本秀也,木原康樹. 重症冠動脈疾患を合併し,侵襲的治療を行った老人性全身性アミロイドーシスの1例. 第118回日本内科学会中国地方会. 2018年5月19日,鳥取.
7. 木原康樹. 高齢者心不全患者の治療に関するステートメント. 第112回日本循環器学会中国・四国合同地方会. 2018年6月2-3日,広島.
8. 松井翔吾,住元庸二,新田和宏,池永寛樹,丸橋達也,石橋堅,福田幸弘,栗栖智,東幸仁,木原康樹. 第1世代薬剤溶出性ステント留置後の再狭窄病変に対する治療中に,非血栓性構造物の冠動脈塞栓を認めた1例. 第112回日本循環器学会中国・四国合同地方会. 2018年6月2-3日,広島.
9. 奥迫諒,石橋堅,新田和宏,宇都宮裕人,北川知郎,日高貴之,福田幸弘,栗栖智,中野由紀子,山本秀也,木原康樹. 冠動脈不全を来したベーチェット病の病勢をFDG-PETで追うことができた1例. 第112回日本循環器学会中国・四国合同地方会. 2018年6月2-3日,広島.
10. 原田侑,宇都宮裕人,泉可奈子,須澤仁,木下未来,日高貴之,木原康樹. 3次元経食道心臓超音波を用いた運動誘発性僧帽弁逆流の規定因子. 日本超音波医学会第91回学術集会. 2018年6月8-10日,兵庫.
11. 宇都宮裕人,須澤仁,泉可奈子,原田侑,木下未来,板倉希帆,日高貴之,木原康樹. Mechanisms of Effort Intolerance in Asymptomatic/Minimally Symptomatic Degenerative Mitral Regurgitation: A Simultaneous Invasive-Noninvasive Study. 日本超音波医学会第91回学術集会. 2018年6月8-10日,兵庫.
12. 板倉希帆,泉可奈子,須澤仁,原田侑,木下未来,宇都宮裕人,日高貴之,木原康樹. 持続性心房細動の洞調律化による右心系形態の変化についての検討. 日本超音波医学会第91回学術集会. 2018年6月8-10日,兵庫.
13. 宇都宮裕人,板橋裕史,池永寛樹,須澤仁,住元庸二,福田幸弘,塩田隆弘,木原康樹. Comparison of mitral valve geometrical effect of percutaneous edge-to-edge repair between central and eccentric functional mitral regurgitation. 第9回日本経カテーテル心臓弁
14. 須澤仁,泉可奈子,原田侑,住元庸二,木下未来,板倉希帆,宇都宮裕人,日高貴之,福田幸弘,木原康樹. 当院におけるドブタミン負荷経食道心エコー図検査によるLow-Flow Low-Gradient Severe ASの診断. 第9回日本経カテーテル心臓弁治療学会学術集会. 2018年7月8日,大阪.
15. Amioka M, Nakano Y, Sairaku A, Tokuyama T, Motoda C, Matsumura H, Tomomori S, Hironobe N, Okubo Y, Okamura S, Kihara Y. Ser96Ala Genetic Variant of Human Histidine-rich Calcium-binding Protein May Be a Genetic Predictor of Recurrence after Catheter Ablation in Patients with Paroxysmal Atrial Fibrillation. 第65回日本不整脈心電学会学術集会. 2018年7月11-14日,東京.
16. Hironobe N, Nakano Y, Okamura S, Okubo Y, Amioka M, Tomomori S, Marsumura H, Motoda C, Tokuyama T, Sairaku A, Kihara Y. Persistent Atrial Fibrillation and Diabetes are Independent Predictors of Tachycardia Induced Cardiomyopathy in Patients with Atrial Fibrillation. 第65回日本不整脈心電学会学術集会. 2018年7月11-14日,東京.
17. Hironobe N, Sairaku A, Okamura S, Okubo Y, Amioka M, Tomomori S, Matsumura H, Motoda C, Tokuyama T, Nakano Y, Kihara Y. To Ablate or Not to Ablate, That Is the Question: Asymptomatic Paroxysmal Atrial Fibrillation. 第65回日本不整脈心電学会学術集会. 2018年7月11-14日,東京.
18. Okubo Y, Nakano Y, Kihara Y, et al. Characteristics of Non-pulmonary vein foci in patients with paroxysmal atrial fibrillation. 第65回日本不整脈心電学会学術集会. 2018年7月11-14日,東京.
19. Okubo Y, Nakano Y, Kihara Y, et al. Large size hiatal hernia may add vulnerability to occurrence of atrial fibrillation. 第65回日本不整脈心電学会学術集会. 2018年7月11-14日,東京.
20. Okamura S, Nakano Y, Kihara Y, et al. Cardiac Autonomic Activity Quantification Using Peripheral Arterial Tone

- Measurement. 第65回日本不整脈心電学会学術集会. 2018年7月11-14日,東京.
21. 木原康樹. 高齢心不全患者の治療に関するステートメントを考える. 第24回日本心臓リハビリテーション学会学術集会. 2018年7月14-15日,神奈川.
 22. Ishibashi K, Kurisu S, Nitta K, Sumimoto Y, Fukuda Y, Yamamoto H, Kihara Y. Retrograde approach during CTO-PCI increases the myocardial damage. 第27回日本心血管インターベンション治療学会学術集会. 2018年8月2-4日,兵庫.
 23. 新田和宏,住元庸二,池永寛樹,石橋堅,福田幸弘,木原康樹. 非閉塞性冠動脈疾患患者におけるスペクトでの心筋虚血と左心室拡張期パラメータとの関係. 第27回日本心血管インターベンション治療学会学術集会. 2018年8月2-4日,兵庫.
 24. 原田侑,宇都宮裕人,泉可奈子,須澤仁,木下未来,板倉希帆,日高貴之,木原康樹. Exercise induced MRを3次元経食道超音波で評価した1症例とその検討. 日本超音波医学会第54回中国地方会学術集会. 2018年9月1日,広島.
 25. 岡野典子,宇都宮裕人,泉可奈子,須澤仁,原田侑,木下未来,板倉希帆,横崎典哉,日高貴之,木原康樹. 急性リンパ性白血病既往患者において薬剤性心筋症と右室内血栓の合併が疑われた1例. 日本超音波医学会第54回中国地方会学術集会. 2018年9月1日,広島.
 26. 加納昭子,宇都宮裕人,泉可奈子,須澤仁,原田侑,木下未来,板倉希帆,横崎典哉,日高貴之,木原康樹. 冠静脈洞型心房中隔欠損症(unroofed coronary sinus: URCS) no) の1例. 日本超音波医学会第54回中国地方会学術集会. 2018年9月1日,広島.
 27. 日高貴之,木原康樹,宇都宮裕人,須澤仁,木下未来,原田侑,板倉希帆,泉可奈子. 侵襲的肺動脈圧測定と心エコー経三尖弁圧較差を用いた運動負荷中右房圧の測定. 日本超音波医学会第54回中国地方会学術集会. 2018年9月1日,広島.
 28. 山路貴之,宇都宮裕人,泉可奈子,須澤仁,原田侑,木下未来,日高貴之,新田和宏,丸橋達也,木原康樹. 三次元経食道心エコーにて卵円孔に嵌頓した深部静脈由来血栓を確認し,奇異性脳塞栓を未然に防ぎえた1例. 日本超音波医学会第54回中国地方会学術集会. 2018年9月1日,広島.
 29. 横山幸枝,宇都宮裕人,泉可奈子,須澤仁,原田侑,木下未来,板倉希帆,横崎典哉,日高貴之,木原康樹. 経胸壁心エコー図検査で壁在血栓が疑われたが,経食道心エコー図検査では著明なもやもやエコーであった1例. 日本超音波医学会第54回中国地方会学術集会. 2018年9月1日,広島.
 30. 須澤仁,泉可奈子,原田侑,木下未来,板倉希帆,宇都宮裕人,日高貴之,木原康樹. 右室転移を来した中皮腫の一例. 日本超音波医学会第54回中国地方会学術集会. 2018年9月1日,広島.
 31. 浅田佳奈,宇都宮裕人,泉可奈子,須澤仁,原田侑,木下未来,板倉希帆,横崎典哉,日高貴之,木原康樹. 心室中隔穿孔閉鎖術後に発症した右室内血栓の1例. 日本超音波医学会第54回中国地方会学術集会. 2018年9月1日,広島.
 32. 栗栖智,住元庸二,池永寛樹,石橋堅,福田幸弘,木原康樹. 負荷心筋血流SPECTのタリウム洗い出しにおける心房細動の影響. 第66回日本心臓病学会学術集会. 2018年9月7日-9日,大阪.
 33. 日高貴之,木原康樹,北川知郎,中麻規子,中山奨. 在宅心不全患者の疾病管理を支える地域医療ネットワーク. 第66回日本心臓病学会学術集会. 2018年9月7日-9日,大阪.
 34. 丸橋達也,木原康樹,東幸仁. 高血圧と血管機能不全. 第41回日本高血圧学会総会. 2018年9月14-16日,北海道.
 35. 丸橋達也,梶川正人,岸本真治,松井翔吾,橋本東樹,高永甲有司,日高貴之,野間玄督,木原康樹,高瀬凡平,富山博史,山科章,東幸仁. 降圧薬内服中高血圧患者の血管内皮機能は,血圧値に関わらず障害されている: FMD-J研究. 第41回日本高血圧学会総会. 2018年9月14-16日,北海道.
 36. 日高貴之,北川知郎,中麻規子,木原康樹. The Role of Base Hospital in the Reform of Medical System to Provide Comprehensive Heart Failure Care 包括的心不全診療体制構築における基幹病院の対応. 第22回日本心不全学会学術集会. 2018年10月11-13日,東京.
 37. Hidaka T, Utsunomiya H, Izumi K, Susawa H, Harada Y, Itakura K, Kinoshita M, Kitagawa T, Ishibashi K, Fukuda Y, Kihara Y. Relationships Between Hemodynamic Responses And VE to VCO₂ Slope During Invasive Cardiopulmonary Exercise Testing In Left Heart Diseases 侵襲的心肺運動負荷試

験を用いた運動中血行動態応答とVE to VCO₂ Slopeの関係. 第22回日本心不全学会学術集会. 2018年10月11-13日,東京.

38. 塩田繁人,金井香菜,中麻規子,磨野浩子,北川知郎,日高貴之,木原康樹. ADL/IADL in elderly patients with heart failure is associated with cognitive function and execution function 高齢心不全患者のADL/IADLは認知機能・前頭葉機能と関連する. 第22回日本心不全学会学術集会. 2018年10月11-13日,東京.
39. 金井香菜,三尾直樹,塩田繁人,磨野浩子,中麻規子,北川知郎,日高貴之,木原康樹. Beneficial effect of home care including outpatient rehabilitation on exercise tolerance affecting quality of life in Stage - D heart failure patients 外来心臓リハビリテーションを活用したStageD心不全の医療介護連携体制の効果:運動耐容能の改善とQOL. 第22回日本心不全学会学術集会. 2018年10月11-13日,東京.
40. 中麻規子,日高貴之,北川知郎,中山奨,金井香菜,塩田繁人,中山満誉,木原康樹. Human Resource Development for Health Care Workers Providing the Comprehensive Care for Patients with Heart Failure in Community 地域で心不全の包括ケアを提供する医療・介護従事者の育成. 第22回日本心不全学会学術集会. 2018年10月11-13日,東京.
41. 道上可奈,金井香菜,中山奨,泉可奈子,日高貴之,木原康樹. 11y girl could return to school by multiple intervention of the heart failure team after fulminant myocarditis; one case report 心肺停止に至った劇症型心筋炎発症後に心不全チームの包括的介入により小学校に復学し得た11歳女兒の1例. 第22回日本心不全学会学術集会. 2018年10月11-13日,東京.
42. Harada Y, Utsunomiya H, Hidaka T, Kitagawa T, Itakura K, Kinoshita M, Susawa H, Izumi K, Kihara Y. Three-dimensional quantification of exercise-induced mitral regurgitation and its impacts on exercise capacity in heart-failure patients 負荷憎悪性僧帽弁逆流の3次元定量評価と心不全患者の運動耐容能との関連. 第22回日本心不全学会学術集会. 2018年10月11-13日,東京.
43. Kitagawa T, Hidaka T, Nakayama S, Naka M, Kihara Y, for the REAL-HF Investigators. Current Medical and Social Conditions and Outcomes of Hospitalized Heart Failure Patients: Design and Baseline Characteristics of the REAL-HF study 心不全患者の医学的かつ社会的実態と転帰に関するレジストリー: 広島県REAL-HF研究の概要とベースライン. 第22回日本心不全学会学術集会. 2018年10月11-13日,東京.
44. Hidaka T, Utsunomiya H, Izumi K, Susawa H, Harada Y, Itakura K, Kinoshita M, Kitagawa T, Ishibashi K, Fukuda Y, Kihara Y. Exercise Right Atrial Pressure Response in Exercise Echocardiography 侵襲的肺動脈圧測定と経三尖弁圧格差を用いた運動負荷中右房圧変化についての検討. 第22回日本心不全学会学術集会. 2018年10月11-13日,東京.
45. 丸橋達也,梶川正人,岸本真治,松井翔吾,橋本東樹,高永甲有司,日高貴之,野間玄督,木原康樹,東幸仁. 未治療高血圧患者の血管機能についての検討. 第59回日本脈管学会総会. 2018年10月25-27日,広島.
46. 丸橋達也,木原康樹,富山博史,東幸仁. 血管内皮機能検査 Flow-mediated vasodilation (FMD). 第55回日本臨床生理学会総会. 2018年11月3-4日,福岡.
47. Okubo Y, Nakano Y, Tokuyama T, Motoda C, Amioka M, Hironobe N, Okamura S, Miyauchi S, Kihara Y. Successful ablation of frequent premature ventricular complexes originating from the left ventricular anterior papillary muscle. アブレーション関連秋季大会2018. 2018年11月9-11日,沖縄.
48. 木原康樹. 超高齢化時代の循環器診療. 第119回日本内科学会中国地方会第59回中国支部主催生涯教育講演会. 2018年11月18日,広島.
49. 板倉希帆,泉可奈子,須澤仁,原田侑,木下未来,宇都宮裕人,日高貴之,木原康樹. 心房細動によりもたらされる Atrial Functional Tricuspid Regurgitationの存在. 第113回日本循環器学会中国地方会. 2018年12月1日,島根.
50. 網岡潤,池内佳裕,山路貴之,新田和宏,住元庸二,池永寛樹,石橋堅,福田幸弘,栗栖智,木原康樹. 多量の血栓を有しており病態の判断に苦慮した冠攣縮による急性心筋梗塞の1例. 第113回日本循環器学会中国地方会. 2018年12月1日,島根.

51. 山本章代,山路貴之,新田和宏,須澤仁,住元庸二,岸本真治,丸橋達也,石橋堅,福田幸弘,栗栖智,木原康樹,渡邊正濟,山根吉貴,高橋信也,末田泰二郎. 2cm大の急性外傷性心室中隔穿孔を認めたが、呼吸・循環動態の破綻を来さなかった1例、その病態とは? 第113回日本循環器学会中国地方会. 2018年12月1日,島根.
52. 原田侑,宇都宮裕人,泉可奈子,須澤仁,木下未来,板倉希帆,日高貴之,木原康樹. ハンドグリップ負荷を用いた運動誘発性僧帽弁逆流症の検討 — 3D-TEEを用いた検討—. 第9回日本心臓弁膜症学会. 2018年12月14-15日,京都.
53. 塩田繁人,野中真佑,窪優子,三尾直樹,金井香菜,磨野浩子,中麻規子,北川知郎,日高貴之,木村浩彰,木原康樹. 高齢心不全患者の服薬管理スクリーニングにおける認知機能・前頭葉機能評価の有用性. 日本心臓リハビリテーション学会第4回中国支部地方会. 2019年2月16日,岡山.
- 国際学会発表
1. Matsui S, Maruhashi T, Kajikawa M, Kishimoto S, Hashimoto H, Hidaka T, Nakashima A, Noma K, Kihara Y, Higashi Y. Lower Urinary Tract Symptoms in men as an early phenotype of endothelial dysfunction. Pulse of Asia 2018. May 19-20, 2018, Kyoto, Japan.
 2. Matsui S, Maruhashi T, Kajikawa M, Kishimoto S, Hashimoto H, Hidaka T, Nakashima A, Noma K, Matsumoto T, Kihara Y, Higashi Y. Novel measurement of Endothelial Function assessed by Short Time Flow-mediated Vasodilation: Comparison with Conventional Flow-mediated Vasodilation. Pulse of Asia 2018. May 19-20, 2018, Kyoto, Japan.
 3. Maruhashi T, Kajikawa M, Kishimoto S, Matsui S, Hashimoto H, Noma K, Tomiyama H, Yamashina A, Kihara Y, Higashi Y. Comparison of Brachial Artery Diameter with Flow-mediated Vasodilation as Vascular Marker for Cardiovascular Risk Assessment: FMD-J Study. Pulse of Asia 2018. May 19-20, 2018, Kyoto, Japan.
 4. Harada Y, Utsunomiya H, Izumi K, Susawa H, Kinoshita M, Itakura K, Hidaka T, Kihara Y. Different Mechanisms of Exercise-Induced Mitral Regurgitation Between Degenerative and Functional Mitral Regurgitation: Three-Dimensional Transesophageal Echocardiography Study. ASE2018 (American Society of Echocardiography). June 22-26, 2018, Gaylord Opryland Resort & Convention Center in Nashville, Tennessee.
 5. Kihara Y. HFpEF in Elderly. APCHF2018 (9th Asian Pacific Congress of Heart Failure). Oct 11-13, 2018, Tokyo, Japan.
 6. Amioka M, Nakano Y, Sairaku A, Tokuyama T, Motoda C, Matsumura H, Tomomori S, Hironobe N, Okubo Y, Okamura S, Chayama K, Kihara Y. Ser96Ala Genetic Variant of Human Histidine-rich Calcium-binding Protein is a Genetic Predictor of Recurrence after Catheter Ablation in Patients with Paroxysmal Atrial Fibrillation. APHRS2018 (11th Asia Pacific Heart Rhythm Society Session). Oct 17-20, 2018, Taipei, Taiwan.
 7. Hironobe N, Nakano Y, Okamura S, Okubo Y, Amioka M, Motoda C, Tokuyama T, Kihara Y. Persistent Atrial Fibrillation and Diabetes are Independent Predictors of Tachycardia Induced Cardiomyopathy in Patients with Atrial Fibrillation. APHRS2018 (11th Asia Pacific Heart Rhythm Society Session). Oct 17-20, 2018, Taipei, Taiwan.
 8. Harada Y, Utsunomiya H, Izumi K, Susawa H, Kinoshita M, Itakura K, Hidaka T, Kihara Y. Different Mechanisms of Exercise-Induced Mitral Regurgitation Between Degenerative and Functional Mitral Regurgitation: A Three-Dimensional Transesophageal Echocardiography Study. American Heart Association Scientific Sessions 2018. Nov 10-12, 2018, Chicago, Illinois, United States.
 9. Matsui S, Higashi Y, Takaeko Y, Hashimoto H, Kishimoto S, Kajikawa M, Maruhashi T, Hidaka T, Nakashima A, F.M. Yusoff, Noma K, Kihara Y. Association of poor tooth brushing behavior with cardiovascular outcome: two-year follow-up prospective observational study. American Heart Association Scientific Sessions 2018. Nov 10-12, 2018, Chicago, Illinois, United States.

10. Kitagawa T, Yamamoto H, Nakamoto Y, Sasaki K, Toshimitsu S, Hirokawa Y, Kihara Y. Prognostic Value of 18F-Sodium Fluoride Positron Emission Tomography for the Prediction of Coronary Events: Comparison and Combination with Computed Tomography. American Heart Association Scientific Sessions 2018. Nov 10-12, 2018, Chicago, Illinois, United States.
11. Itakura K, Izumi K, Susawa H, Harada Y, Kinoshita M, Utsunomiya H, Hidaka T, Kihara Y. The Recover From Persistent Atrial Fibrillation Provide the Contraction in Volume of Right Heart and Tricuspid Regurgitation. American Heart Association Scientific Sessions 2018. Nov 10-12, 2018, Chicago, Illinois, United States.
12. Utsunomiya H, Yamamoto H, Shimada A, Kitagawa T, Hidaka T, Kihara Y. Increased Epicardial Adipose Tissue Volume is Associated With Left Ventricular Diastolic Function in Patients With Zero Coronary Artery Calcium Score. American Heart Association Scientific Sessions 2018. Nov 10-12, 2018, Chicago, Illinois, United States.
13. Utsunomiya H, Harada Y, Izumi K, Susawa H, Kinoshita M, Itakura K, Ikenaga H, Hidaka T, Kihara Y, Shiota T. Size, Shape, and Orientation of Dilated Annulus in Tricuspid Regurgitation: A Real-Time 3-Dimensional Transesophageal Echocardiography Study. American Heart Association Scientific Sessions 2018. Nov 10-12, 2018, Chicago, Illinois, United States.
14. Sumimoto Y, Hidaka T, Nitta K, Ishibashi K, Fukuda Y, Kurisu S, Higashi Y, Kihara Y. A Validation Study of Enclosed-Zone Central Venous Pressure (ezCVP) Measurement Using Non-invasive Oscillometric Method. American Heart Association Scientific Sessions 2018. Nov 10-12, 2018, Chicago, Illinois, United States.
15. Yamaji T, Mikami S, Tanaka K, Higashi Y, Kihara Y. Does Higher Uric Acid Increase New Onset of Hypertension in a Japanese Population? American Heart Association Scientific Sessions 2018. Nov 10-12, 2018, Chicago, Illinois, United States.
16. Okubo Y, Nakano Y, Miyauchi S, Okamura S, Hironobe N, Amioka M, Motoda C, Tokuyama T, Kihara Y. Increased Urinary Liver-Type Fatty Acid-Binding Protein Level Predicts Major Adverse Cardiovascular Events in Hypertensive Patients. American Heart Association Scientific Sessions 2018. Nov 10-12, 2018, Chicago, Illinois, United States.
17. Nakano Y, Nishiyama Y, Onohara Y, Tokuyama T, Motoda C, Amioka M, Hironobe N, Okubo Y, Okamura S, Miyauchi S, Tahara H, Kihara Y. Plasma Micrnas as NonInvasive Biomarkers in Patients With Brugada Syndrome. American Heart Association Scientific Sessions 2018. Nov 10-12, 2018, Chicago, Illinois, United States.
18. Miyauchi S, Nakano Y, Okamura S, Okubo Y, Hironobe Y, Amioka M, Motoda C, Tokuyama T, Kihara Y. Leucocyte Telomere G-Tail Length Is Shortened In Patients With Atrial Fibrillation. American Heart Association Scientific Sessions 2018. Nov 10-12, 2018, Chicago, Illinois, United States.
19. Maruhashi T, Higashi Y, Kajikawa M, Kishimoto S, Matsui S, Hashimoto H, Takaekou Y, Hidaka T, Farina Mohamad Yusoff, Noma K, Tomiyama H, Yamashina A, Takase B, Suzuki T, Kihara Y. Usefulness of Vascular Function Tests for Cardiovascular Risk Prediction in Patients With Coronary Artery Disease: FMD-J (Flow-Mediated Dilation Japan) Study A. American Heart Association Scientific Sessions 2018. Nov 10-12, 2018, Chicago, Illinois, United States.
20. Okubo Y, Nakano Y, Miyauchi S, Okamura S, Hironobe N, Amioka M, Motoda C, Tokuyama T, Kihara Y. Prediction of Atrial Fibrillation using Combination of Genetic Risk Score and Clinical Risk Factors. American Heart Association Scientific Sessions 2018. Nov 10-12, 2018, Chicago, Illinois, United States.
21. Matsumoto T, Oguri N, Kinoshita H, Matsumura H, Sairaku A, Morishima N, Kihara Y. Evaluation of Arginine

Vasopressin Level One Week After Hospitalization May Be a Predictor of the Prognosis of Patients With Congestive Heart Failure. American Heart Association Scientific Sessions 2018. Nov 10-12, 2018, Chicago, Illinois, United States.

22. Matsui S, Higashi Y, Takaeko Y, Hashimoto H, Kishimoto S, Kajikawa M, Maruhashi T, Hidaka T, Nakashima A, F.M.Yusoff, Noma K, Kihara Y. Lower Urinary Tract Symptoms in Men is an Early Phenotype of Endothelial Dysfunction. American Heart Association Scientific Sessions 2018. Nov 10-12, 2018, Chicago, Illinois, United States.
23. Nakano Y, Ochi H, Onohara Y, Tokuyama T, Motoda C, Amioka M, Hironobe N, Okubo Y, Miyauchi S, Tomomori S, Matsumura H, Sairaku A, Chayama K, Kihara Y. HCN4 Gene Polymorphisms Are Associated With the Occurrence of Tachycardia Induced Cardiomyopathy in Patients With Atrial Fibrillation. American Heart Association Scientific Sessions 2018. Nov 10-12, 2018, Chicago, Illinois, United States.
24. Susawa H, Hidaka T, Izumi K, Harada Y, Kinoshita M, Itakura K, Utsunomiya H, Kihara Y. Relationship Between Pulmonary Arterial Pressure and Pulmonary Capillary Wedge Pressure during Exercise in Patient with Asymptomatic Severe Degenerative Mitral Regurgitation. ACC Asia Conference 2018. Dec 1-2, 2018.

香坂 俊 (研究分担者)

1. 入院前投与薬剤は、急性心不全の来院時呼吸状態と院内死亡率に影響を与える(会議録)
Author : 宮本 貴庸(武蔵野赤十字病院 総合診療科), 原田 和昌, 宮崎 哲郎, 香坂 俊, 飯田 圭, 谷本 周三, 矢川 真弓子, 松下 健一, 武井 眞, 松田 淳也, 岩崎 陽一, 長友 祐司, 細田 徹, 白石 泰之, 山本 剛, 長尾 建, 高山 守正
Source : ICUとCCU (0389-1194)42巻別冊 Page S79-S81(2018.12)
2. 在宅診療の視点から捉える循環器内科(会議録)
Author : 香坂 俊(慶応義塾大学 医学部循環器内科)
Source : 日本在宅医学会大会 20回 Page326(2018.04)
3. 心不全患者におけるリスクで調整した緩和ケアの

質(Risk-adjusted Palliative Care Quality of Care in Heart Failure Patients)(会議録)
Author : 水野 篤(聖路加国際病院 循環器内科), 河野 隆志, 長友 祐司, 香坂 俊, 筋野 容守, 武井 眞, 合田 あゆみ, 吉川 勉, 宮下 光令
Source : 日本循環器学会学術集会抄録集 82回 Page LBCS2-6(2018.03)

4. 医学における統計学 レトロスペクティブ研究の結果報告(Statistics in Medicine: Reporting Results of Retrospective Studies)(英語)(会議録)
Author : 香坂 俊(慶応義塾大学 循環器内科)
Source : 日本循環器学会学術集会抄録集 82回 Page SS13-3(2018.03)

後藤 葉一 (研究分担者)

1. 後藤葉一. わが国の心臓リハビリテーションの到達点と今後の課題: 理事長総括. 口頭発表, 第24回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 特別講演 2018年7月, 横浜 (国内)
2. 後藤葉一. 心臓リハビリテーション学会からの卒前卒後教育への要望. 口頭発表, 第24回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 シンポジウム「医学教育と心臓リハビリテーション」 2018年7月, 横浜 (国内)
3. 福井重文, 後藤葉一, 大郷剛, 浅野遼太郎, 小永井奈緒, 上田仁, 辻明宏, 荒川鉄雄, 中西道郎, 安田聡. バルーン肺動脈形成術終了直後から開始する心リハの多面的効果と安全性—心リハの指摘開始時期について. 口頭発表, 第24回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 日本心臓病学会ジョイントセッション「肺高血圧症の心臓リハビリテーション」 2018年7月, 横浜 (国内)
4. 後藤葉一. AMI後の心臓リハビリテーション. 口頭発表, 第27回日本心血管インターベンション治療学会学術集会 日本循環器学会合同セッション「急性心筋梗塞治療の最前線」 2018年8月, 神戸 (国内)
5. 後藤葉一. 長期予後改善をめざす心臓リハビリテーション: エビデンスと実際. 口頭発表, 第2回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会教育講演 2018年11月, 仙台 (国内)
6. 後藤葉一. 肺高血圧症に対する運動療法とリハビリテーション総論. 口頭発表, 第28回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 会長企画シンポジウム「肺高血圧症に対する運動療法

のコントロールシー」 2018年11月, 千葉・幕張 (国内)

7. 神谷健太郎、佐藤幸人、高橋哲也、眞茅みゆき、池亀俊美、琴岡憲彦、田倉智之、後藤葉一、山本貴信、磯部光章. Impact of Multidisciplinary Cardiac Rehabilitation in Patients with Heart Failure on Survival and Hospitalization: The AMED-CHF Cardiac Rehabilitation Study. 口頭発表, 第84回日本循環器学会学術集会 Late Breaking Cohort Session 2019年3月29日, 大阪 (国内)
8. 後藤葉一. Current Status and Future Shape of Cardiovascular Care in Japan: Importance of Exercise and Nutrition Intervention in Post-discharge Disease Management. 口頭発表, 第84回日本循環器学会学術集会シンポジウム「超高齢化・医療費膨張時代における循環器医療提供体制と医療政策のあり方」 2019年3月31日, 大阪 (国内)

小室 一成 (研究分担者)

1. 第83回日本循環器学会学術集会代表理事講演(2019年3月30日)
Task and Outlook of Cardiovascular Medicine in Japan-Future Direction of the JCS

筒井 裕之 (研究分担者)

1. 第11回日本性差医学・医療学会学術集会 (平成30年1月21日, 福岡)
筒井裕之: 心不全診療・研究の現状と将来展望. (ランチョンセミナー)
2. 第10回福岡県医学会総会専門医共通講習会 (平成30年2月4日, 福岡)
筒井裕之: 心不全医療の最新動向. (シンポジウム)
3. 第51回日本痛風・核酸代謝学会総会 (平成30年2月22日・23日, 鳥取)
筒井裕之: 心不全併存症としての高尿酸血症・痛風の治療指針 ~日本心不全学会の立場から~. (シンポジウム)
4. 第82回日本循環器学会学術集会 (平成30年3月23日~25日, 大阪)
筒井裕之: 急性・慢性心不全診療ガイドライン2017~改訂のポイント~. (ランチョンセミナー)
5. 第82回日本循環器学会学術集会 (平成30年3月2

3日~25日, 大阪)

筒井裕之: 急性・慢性心不全診療ガイドライン2017~急性心不全を中心に~. (日本集中治療医学会ジョイントセッション)

6. 第82回日本循環器学会学術集会 (平成30年3月23日~25日, 大阪)
筒井裕之: 急性・慢性心不全診療ガイドライン(2017年改訂版) 日本循環器学会/日本心不全学会 合同ガイドライン. (委員会セッション (ガイドライン委員会))
7. 第112回日本循環器学会中国・四国合同地方会 (平成30年6月2日・3日, 広島)
筒井裕之: 急性・慢性心不全診療ガイドライン2017 ~改訂のポイント~.
8. 第248回循環器学会 関東甲信越地方会 (平成30年6月9日, 東京)
筒井裕之: 急性・慢性心不全診療ガイドライン2017 ~改訂のポイント~.
9. 第248回日本循環器学会関東甲信越地方会 (平成30年6月9日, 東京)
筒井裕之: 急性・慢性心不全診療ガイドライン2017 ~改訂のポイント~. (教育セッション)
10. 日本心不全学会チーム医療推進委員会 (平成30年7月28日, 大阪)
筒井裕之: ここが変わった! 急性・慢性心不全診療ガイドライン. (教育セミナー)
11. 第66回日本心臓病学会学術集会 (平成30年9月7日~9日, 大阪)
筒井裕之: 急性・慢性心不全診療ガイドライン (改訂版). (企業向けセミナー: 循環器疾患ガイドラインを臨床に活かす)
12. 第41回日本高血圧学会総会 (平成30年9月14日~16日, 北海道)
篠原啓介, 柴田理紗, 廣岡良隆, 筒井裕之: 心不全の進展における高血圧の関与: 心脳連関を含めた病態機序 (Hypertension-associated pathophysiology of heart failure). (シンポジウム)
13. 第125回日本循環器学会九州地方会 (平成30年12月1日, 福岡)
筒井裕之: ガイドラインに学ぶ急性心不全マネージメントのポイント. (研修医教育セミナー)
14. 第21回日本成人先天性心疾患学会総会・学術集会 (平成31年1月11日~13日, 岡山)
坂本一郎: 心不全治療における薬物療法の功罪. (教育講演)
15. 第21回日本成人先天性心疾患学会総会・学術集会 (平成31年1月11日~13日, 岡山)
肥後太基, 坂本一郎, 石北綾子, 永富将太, 樋口妙, 筒井裕之: ACHD患者に対する心臓リハビリテーション. (学術委員会シンポジウム)
16. 第46回日本集中治療医学会学術集会 (平成31年

3月1日～3日, 京都)

筒井裕之: 最新の心不全診療ガイドラインを読み解く. (ジョイントシンポジウム)

17. 第83回日本循環器学会学術集會市民公開講座 (平成31年3月24日, 横浜)
筒井裕之: 心不全を知って、うまく付き合う. (講演)
18. 第83回日本循環器学会学術集會 (平成31年3月29日～31日, 横浜)
H, T.: Efficacy and safety of ivabradine in Japanese patients with chronic heart failure and reduced ejection fraction: J-SHIFT Study. (Late Breaking Clinical Trials)
19. 第83回日本循環器学会学術集會 (平成31年3月29日～31日, 横浜)
H, T.: Efficacy and safety of sacubitril/valsartan in Japanese patients with chronic heart failure and reduced ejection fraction: PARALLEL-HF Study. (Late Breaking Clinical Trials)
20. 第83回日本循環器学会学術集會 (平成31年3月29日～31日, 横浜)
筒井裕之: To prevent the development and progression of heart failure: roadmap in the 5-year plan of STOP CVD. (シンポジウム)

福本 義弘 (研究分担者)

1. 第22回日本緩和医療学会学術集會 (2018年6月15日～17日: 神戸)
シンポジウム13
柴田龍宏、大森崇史、岡村知直、柏木秀行、岸拓弥: 九州心不全緩和ケア深論プロジェクトが目指すもの
一般演題 (ポスター)
中島菜穂子、柴田龍宏、山路裕美子、牛嶋浩子、手塚久美、栗原和子、馬渡一寿、堀川直希、佐野智美、釘嶋美穂、福本義弘: 重症心不全患者に対するスクリーニングから見えてきた本邦心不全患者のつらさ
2. 第66回日本心臓病学会学術集會 (2018年9月7日～9月9日: 大阪)
シンポジウム2
柴田龍宏、馬渡一寿、中島菜穂子、下園弘達、南嶋裕美子、牛嶋浩子、高橋甚彌、堀川直希、佐野智美、安川秀雄、福本義弘: 地域包括的心不全治療に緩和ケアをどう組み込むか
会長特別企画 ケースに学ぶ23
柴田龍宏: 地域医療・在宅医療へ活かす緩和の

チーム医療実践 精神科医の果たすべき役割と、地域への橋渡しのコツ

チーム医療セッション4

柴田龍宏、柏木秀行、大森崇史、岡村知直、岸拓弥、大石醒悟、水野篤、福本義弘: 基本的な心不全緩和ケア普及のためのトレーニングコース作成

チーム医療委員会セッション

柴田龍宏、中島菜穂子、柏木秀行、大森崇史、岡村知直、岸拓弥、大石醒悟、水野篤、福本義弘: 心不全診療におけるACPの普及を考える

3. 第22回日本心不全学会学術集會 (2018年10月12日～13日: 東京)
ジョイントシンポジウム 4
日本循環器心身医学会 合同シンポジウム
Tatsuhiko Shibata, Yoshihiro Fukumoto: Multidisciplinary approach to palliative care of advanced heart failure
ハートチームシンポジウム1
柴田龍宏、福本義弘: 重症心不全患者に対する緩和ケア的アプローチ
ハートチームシンポジウム4
柴田龍宏、福本義弘: 心不全緩和医療における次世代ハートチームの育成: 心不全内科医の視点
一般演題 (口述)
Tatsuhiko Shibata, Kazutoshi Mawatari, Naoko Nakashima, Koutatsu Shimozono, Yumiko Yamaji, Kouko Ushijima, Miki Murakami, Toshiyuki Yanai, Jinya Takahashi, Naoki Horikawa, Tomomi Sano, Hideo Yasukawa, Yoshihiro Fukumoto:
Impact of heart failure palliative care team establishment in patients with heart failure death in Kurume University Hospital
4. 第75回日本循環器心身医学会学術総会 (2018年11月4日: 東京)
日本循環器看護学会×日本循環器心身医学会ジョイントシンポジウム
柴田龍宏、下園弘達、馬渡一寿、中島菜穂子、山路裕美子、牛嶋浩子、高橋甚彌、堀川直希、佐野智美、安川秀雄、福本義弘: 心不全緩和ケア新時代に考えるACPの本質 医師の立場から

山田 佐登美 (研究分担者)

1. 循環器疾患の患者に対する緩和ケア提供体制の

あり方～循環器疾患患者に対する緩和ケア提供体制のあり方に関するワーキンググループの報告書（平成30年4月）より～

第15回日本循環器看護学会、平成30年10月27日

2. 地域包括ケアシステムと心不全患者の緩和ケア、第83回日本循環器学会、平成31年3月29日

弓野 大（研究分担者）

1. 2018年4月、東京
日本在宅医学会 第20回記念大会、シンポジウム「高齢者心不全の在宅医療」
日本在宅医学会 第20回記念大会、シンポジウム「非癌の在宅医療における二人主治医制の可能性」
2. 2018年9月、大阪
第66回日本心臓病学会学術集会、シンポジウム「高齢者心不全の在宅医療」
第66回日本心臓病学会学術集会、教育セッション「在宅現場で心不全の増悪をどのように察知するか？」
3. 2018年10月、東京
第22回日本心不全学会学術集会、ディスカッション「地域での心不全医療—介護負担と終末期医療の体制構築のために—」
第22回日本心不全学会学術集会、ランチョンセミナー「高齢者心不全の意思決定支援を識る—E-FIELDからの学び—」
第22回日本心不全学会学術集会、教育講演「心不全の在宅医療—医療専門職の更なる可能性—」
4. 2019年3月、横浜
第83回日本循環器学会学術集会、ディスカッション「Creating More Home-Time for Elderly Heart Failure Patients -Perspective of Home Medical Care」
第83回日本循環器学会学術集会、教育セッション「心不全の在宅ケア」

（令和元年度）

安斉 俊久（研究分担者）

1. 濱谷康弘、仲井えり、宮田美知、中村絵美、河野由枝、高田弥寿子、庵地雄太、舟橋紗耶華、平山敦士、黒田健輔、天野雅史、菅野康夫、安斉俊久、泉知里。Survey of palliative sedation in end-stage heart failure patients: a

Five year experience in national cardiovascular center. 第83回日本循環器学会学術集会。2019年3月 横浜

2. 安斉俊久。最新の心不全治療から緩和ケアまで。日本心不全学会教育セミナー。2019年7月 米子
3. 安斉俊久。末期心不全と緩和ケア。シンポジウム17。基調講演。第67回日本心臓病学会学術集会。2019年9月 名古屋
4. 安斉俊久。循環器疾患における末期医療に関する提言の改訂について。日本循環器心身医学会・日本心臓病学会ジョイントシンポジウム。第67回日本心臓病学会学術集会。2019年9月 名古屋
5. 濱谷康弘、高田弥寿子、宮本恵宏、河野由枝、柴田龍宏、鈴木敦、西川満則、伊藤弘人、加藤雅志、志賀剛、福本義弘、泉知里、安田聡、菅野康夫、安斉俊久。心不全緩和ケアにおける診療の質評価指標（Quality indicator）の策定と実践。第67回日本心臓病学会学術集会。2019年9月 名古屋

その他

1. 安斉俊久。心不全ってなんですか？北海道心臓協会市民フォーラム2019。2019年10月 札幌（市民公開講座）

今村 知明（研究分担者）

1. 2019年11月14日～2019年11月14日（奈良県、奈良県医師会館）第40回奈良県公衆衛生学会奈良県救急搬送統計を用いた高齢者施設タイプ別救急搬送の実態 次橋幸男、赤羽学、今村知明、吉井克昌。
2. 2019年11月14日～2019年11月14日（奈良県、奈良県医師会館）第40回奈良県公衆衛生学会円滑な退院支援の実現にむけた医療と在宅医療・介護職の他職種連携の課題に関する研究中谷友哉、岡本左和子、澤本万紀子、河本慶子、濱田未来、今村知明。
3. 2019年10月23日～2019年10月25日（高知県、高知会館 3階平安）第78回日本公衆衛生学会総会 胃瘻造設術の減少と人工栄養の推移：レセプトデータを用いた患者数と生命予後の分析 次橋幸男、赤羽学、中西康裕、林修一郎、野田龍也、明神大也、今村知明。
4. 2019年10月23日～2019年10月25日（高知県、高知会館 3階平安）第78回日本公衆衛生学会総会 奈良県における褥瘡患者数集計の検討：KDBデータを用いて 菅野沙帆、久保慎一郎、赤羽学、次橋幸男、今村知明。
5. 2019年10月23日～2019年10月25日（高知県、

ホテル日航高知旭ロイヤル3階 ゴールデンパシフィック) 第78回日本公衆衛生学会総会 切れ目のない連携のための退院支援に関する病院と患者の認識調査 岡本左和子、河本慶子、今村知明.

その他

1. 2019年09月20日～2019年09月21日(山口県、海峡メッセ下関) 第17回日本臨床医療福祉学会 特別講演 超高齢社会で医療や介護分野で何が起ころうとしているのか～医療構想と地域包括ケアシステム～今村知明.

江頭 正人 (研究分担者)

その他

1. 第23回日本心不全学会学術集会ランチョンセミナー23. 講演 I 「超高齢社会におけるフレイル予防の重要性～栄養管理の重要性も含めて～」 広島国際会議場. 2019年10月6日 (日)
2. 神明台ハートセミナー. 特別講演 1 「高齢者の循環器疾患マネジメントにおける感染症予防の重要性」 公益財団法人日本心臓血圧研究振興会附属榊原記念病院3F榊原ホール. 2019年10月18日 (金)

木原 康樹 (研究分担者)

1. 木原康樹. 超高齢社会における循環器診療. 第1回日本在宅医療連合学会大会. 2019年7月14日, 東京.
2. 木原康樹. 心不全治療の到達点と残された課題. 第23回日本心不全学会学術集会. 2019年10月4日, 広島.
3. 木原康樹. 心不全に放つ3本の矢～心臓を診る、人を看る、社会を観る～: チームを担う医療専門職へのメッセージ. 第23回日本心不全学会学術集会. 2019年10月5日, 広島.
4. 木原康樹. 心不全の病診連携. 第33回日本臨床内科医学会. 2019年10月13日, 広島.
5. 木原康樹. 心不全の地域医療連携. 第115回日本循環器学会中国地方会. 2019年11月30日, 広島.
6. 第23回日本心不全学会学術集会 大会長 木原康樹 令和元年(2019年)10月4-6日、広島国際会議場、広島

香坂 俊 (研究分担者)

1. M Yukino, Y Nagatomo, A Goda, Y Sujino, A Mizuno, T Kohn, Y Shiraishi, S Kohsaka, T Yoshikawa. Use of non-invasive positive pressure ventilation is associated with worse short-term outcome after discharge for elderly patients with acute decompensated heart failure Heart Failure 2019
2. 長友祐司 2019年心臓病学会会長特別企画 HFpEF 治療における治療ターゲットを再考する HFpEF の疾患プロセスにおける左室リモデリングとは

筒井 裕之 (研究分担者)

1. 筒井裕之: 急性・慢性心不全診療ガイドライン2017を読み解く, 第8回臨床高血圧フォーラムスポンサーセッション, 2019年5月12日, 久留米
2. 筒井裕之: 心不全診療update, Kyushu Prevent2019, 2019年6月2日, 福岡
3. 筒井裕之: ガイドラインに準拠した心不全診療, 日本内科学会北陸支部第77回生涯教育講演会, 2019年6月16日, 福井
4. 筒井裕之: ガイドライン準拠 診療の現状と将来 (特別講演), 第19回神奈川循環器フォーラム, 2019年7月20日, 横浜
5. 筒井裕之: 地域連携に必要な心不全診療エッセンス～ガイドラインを読む～ (特別講演), 第37回シーサイドハートカンファランス, 2019年1月13日, 福岡

福本 義弘 (研究分担者)

1. EuroPrevent 2019, Lisbon, Portugal, 2019年4月12日 (Fri) Symposium “Exercise training in heart failure patients with various clinical presentations— case-based discussions” Yoshihiro Fukumoto: Cases with atrial and ventricular arrhythmias: How to handle the risk of arrhythmia during exercise?
2. 日本内科学会東北地方会 第73回生涯教育講演会、仙台、2019年6月22日 (土) 教育講演 4 福本義弘: Onco-cardiology の重要性

- 第23回 日本心不全学会学術集会、広島、2019年10月5日(土)
アフタヌーンセミナー
福本義弘：超高齢社会における心不全について
- 第23回 日本心不全学会学術集会、広島、2019年10月6日(日)
特別企画9「災害時における心不全診療」
福本義弘：東日本大震災における循環器疾患発症率の変化
- 日本心臓リハビリテーション学会 第4回東北支部地方会、仙台、2019年12月8日(日)
特別講演
福本義弘：超高齢社会における心臓リハビリテーションと多職種連携の重要性

山田 佐登美 (研究分担者)

- 山田佐登美：看護師特定行為研修の概要と循環器看護への影響、第16回日本循環器看護学会学術集会パネルディスカッション、2019年11月2日
- 山田佐登美：心不全患者の緩和ケアにおける看護師の役割と育成のあり方、第67回日本心臓病学会学術集会シンポジウム、2019年、9月15日

その他

- 講演：地域で紡ぐ心不全患者の緩和ケア ～患者の自律を促進するアプローチ～、心不全連携を考える会 in 市原、2019年11月20日
- 厚生労働省2020年度診療報酬改定に向けた医療技術評価提案書学会ヒアリング(心不全再入院予防指導管理料、在宅患者訪問看護・指導料3) 2019年8月8日(木)(日本循環器看護学会政策・診療報酬委員会委員長として参加)
- 高血圧症治療ガイドライン2019(2019年4月25日発行)に外部評価委員として参加
- 講演：地域包括ケアと看護職の役割～心不全患者を例として～、広島県看護協会研修会、2019年10月28日
- 講演：認定看護師の未来志向、岡山県看護協会研修会、2019年11月25日

弓野 大 (研究分担者)

- 第30回日本臨床モニター学会総会、セミナー「高齢心不全患者のHome-Timeのために—在宅医療の立場から—」2019年4月、千葉
- 第1回日本在宅医療連合学会大会、シンポジウム「高齢心不全患者を地域でいかに効率的にみていくか」2019年7月、東京
- 第67回日本心臓病学会学術集会、シンポジウム「在宅医療を治療戦略のひとつへ」2019年9月、名古屋
- 第67回日本心臓病学会学術集会、基調講演「心不全の在宅緩和ケア」2019年9月、名古屋
- 第67回日本心臓病学会学術集会、「在宅看取りの実際」2019年9月、名古屋
- 第67回日本心臓病学会学術集会、「心不全患者の多様性に応える—予防から看取りまで—」2019年9月、名古屋
- 第23回日本心不全学会学術集会、シンポジウム「心不全の地域医療におけるICT活用の課題：Challenge of ICT Utilization for Community Medicine of Heart Failure Patients」2019年10月、広島
- 第23回日本心不全学会学術集会、シンポジウム「高齢心不全患者の在宅医療の実際—フレイルや認知症を合併する事例から—：Perspective of Home-based Medical Care for Elderly Heart Failure Patients with Frailty and Dementia」2019年10月、広島

その他

- 日本循環器学会ガイドライン「循環器疾患における緩和ケアについての提言(2020年改訂版)」協力員

(令和2年度)

磯部 光章 (研究代表者)

市民講座開催・発表等
開催

- 公開シンポジウム「かかりつけ医によるこれからの心不全診療：循環器病対策推進基本計画策定を受けて」2021年3月6日

発言

- 「高齢者心不全患者のケアにおけるかかりつけ医と多職種の役割」かかりつけ医によるこれからの

心不全診療：循環器病対策推進基本計画策定を受けて 2021 年 3 月 6 日

その他

プレスリリース

1. 地域かかりつけ医、在宅医、周辺多職種を対象として高齢者心不全患者診療ガイドブックが完成 2020 年 11 月 25 日
2. 心不全患者に対する新たな治療～心臓リハビリテーションの有効性に関する研究～2020 年 9 月 30 日
3. イベント「心臓を守る健康レシピ」

マスメディア発表

1. シリーズ◎心不全を克服せよ トピック◎国内の大規模後ろ向き研究の結果 心臓リハビリ、HFpEFとフレイルの予後も改善 日経メディカル 2020 年 12 月 21 日
[心臓リハビリ、HFpEFとフレイルの予後も改善：日経メディカル \(nikkeibp.co.jp\)](http://nikkeibp.co.jp)

安斉 俊久 (研究分担者)

1. 安斉俊久、「循環器疾患における緩和ケアについての提言. ガイドラインから学ぶ.」第 85 回日本心臓病学会学術集会. 2021 年 3 月 名古屋

今村 知明 (研究分担者)

1. 2021 年 03 月 26 日～2021 年 03 月 28 日 (神奈川県、パシフィコ横浜/WEB) 第 85 回日本循環器学会学術総会 リアルワールド・データの臨床活用への現状と課題 今村知明.

江頭 正人 (研究分担者)

1. 「老年医学教育の現状と今後の展望」演者「老年病専門医について」第 62 回日本老年医学会学術集会 (WEB 開催). シンポジウム 16. 2020 年 8 月 6 日.

香坂 俊 (研究分担者)

1. 香坂 俊「臨床現場からデータを積み上げ

る：アカデミア、医師主導のリアルワールドエビデンス構築」第 29 回日本心血管インターベンション治療学会 (CVIT 2020) 学術集会 2021 年 2 月 21 日

2. 香坂 俊「かかりつけ医が診療ガイドラインをどう使うか：心不全診療の適切性基準の開発」第 24 回日本心不全学会学術集会 地域研究報告会 2020 年 10 月 17 日
3. 「Pharmaco-Epidemiological Studies from Real-World Administrative Data：解析の方向性とCKD 領域への展開の可能性」第63回 日本腎臓病学会シンポジウム 8 2020年6月26日

佐藤 幸人 (研究分担者)

1. 佐藤幸人「心臓リハビリにも必要 心不全チーム医療の知識」 2019 年度全国自治体病院協議会リハビリテーション部会研修会 2019 9 6 東京
2. 佐藤幸人「高齢者心不全診療における現状の課題と今後の展望」第 23 回日本心不全学会学術集会 2019 10 5 広島 ランチョンセミナー
3. 佐藤幸人「社会的課題：心不全のチーム医療と薬剤師」第 52 回日本薬剤師会学術大会 2019 10 13 山口
4. 「心臓悪液質」第 84 回日本循環器学会学術集会 2020. 7. 31 Web 京都
5. 「心不全緩和ケアの現状と方向性」第 30 回日本医療薬学会年会 (シンポジウム) 2020. 8. 20 Web
6. 「超高齢化社会における心不全チーム医療」第 30 回日本医療薬学会年会 (シンポジウム) 2020. 9. 11 Web
7. 「地域のかかりつけ医と多職種による心不全診療：新しいガイドブックの作成と活用 かかりつけ医による心不全診療」第 17 回日本循環器看護学会学術集会 (シンポジウム) 2020. 9. 11 Web

福本 義弘 (研究分担者)

1. 肺高血圧症の治療戦略 左心系心疾患による肺

高血圧症の問題点 第 61 回日本脈管学会総会
パネルディスカッション 2 Web (仙台)、2020
年 10 月 13 日 (火)

学会 2021年3月28日

2. わが国におけるこれからの心臓リハビリテーション 第 6 回 日本心臓リハビリテーション学会九州支部地方会 シンポジウム 1 大分、2020 年 11 月 8 日 (日)
3. COVID-19 感染症による血管への傷害について 久留米内科医会 学術講演会 講演 2 久留米、2020 年 9 月 25 日 (金)

武藤 真祐 (研究分担者)

1. 「COVID-19がもたらす医療への影響」第24回日本医療情報学会春季学術大会 2020年6月6日 (土) 16:45~18:15
2. 「ICTを用いた心不全管理プログラムの開発」第26回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 2020年7月18日 (土) 10:40~12:00
3. 「介護サービスは第2、3波にいかにかに備えるか」第4回日本在宅救急医学会学術集会 2020年9月5日 (土) 第4回日本在宅救急医学会学術集会 2020年9月5日 (土)
4. 「地域包括ケア時代の薬剤師が知っておくべき遠隔診療・ICTの現状と未来」第13回日本在宅薬学会学術大会 2020年9月13日 (日) 8:50~10:50
5. 「COVID-19感染拡大におけるオンライン診療」第258回日本循環器学会関東甲信越地方会 2020年12月12日 (土) 9:00~12月14日 (月) 24:00 (オンライン配信)

山田 佐登美 (研究分担者)

1. 山田佐登美：循環器看護実践の価値づくりと政策提言～令和 2 年診療報酬改定の結果を受けて～ 第17回日本循環器看護学会学術集会 2020年10月10日
2. 山田佐登美：循環器病対策推進基本計画からみた看護師の役割と育成 日本心臓リハビリテーション学会 第6回中国地方会 2021年2月20日
3. 山田佐登美：高齢心不全患者のEnd of lifeを支えるケア体制と看護師教育 第85回日本循環器

弓野 大 (研究分担者)

1. 「Building a System in Cardiology Clinic to Prevent Rehospitalization of Elderly Heart Failure with Home-based Medical Care」第84回日本循環器学会学術集会、シンポジウム 2020年7月
2. 「次世代の心不全在宅医療のかたち」第84回日本循環器学会学術集会、シンポジウム 2020年7月
3. 「在宅の立場からDTを考える」第24回日本心不全学会学術集会、シンポジウム 2020年10月
4. 「在宅心不全患者への遠隔モニタリングの活用—HeartLogicの可能性—」第24回日本心不全学会学術集会、セミナー 2020年10月
5. 「COVID-19渦での地域診療所の心不全再入院を抑えるための試み」第24回日本心不全学会学術集会、2020年10月
6. 「心不全の在宅医療」かかりつけ医によるこれからの心不全診療：循環器病対策基本計画制定を受けて 公開シンポジウム 2021年3月
7. 「Community-Based Medical Care and Insurance Policy for Heart Failure-Issues and Counteractions」第85回日本循環器学会学術集会、シンポジウム 2021年3月
8. 「これからの心不全の在宅診療のありかた」第85回日本循環器学会学術集会、会長特別企画 2021年3月
9. 「かかりつけ医のための心不全の診かた」第85回日本循環器学会学術集会、セミナー 2021年3月
10. 「ICT Utilization to Prevent Heart Failure Readmission within Regional Clinics」第85回日本循環器学会学術集会、シンポジウム 2021年3月

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得
2. 実用新案登録・
3. その他

特になし。

作成したガイドブック、介護サービス Q&A、患者教育動画については、公刊と同時に著作権を研究班が保持している趣旨の宣言を記載した。